

松本市国際関係資料

2025年度
(令和7年度)

松 本 市

目 次

1	海外姉妹・友好都市	ページ
	長野県の海外姉妹・友好都市	2
	松本市の海外姉妹・友好都市	4
	海外姉妹・友好都市 歴代首長	5
	ソルトレークシティ （アメリカ合衆国ユタ州）	6
	カトマンズ市 （ネパール連邦民主共和国）	11
	廊坊市 （中華人民共和国河北省）	19
	グリンデルワルト村 （スイス連邦ベルン州）	27
2	海外交流都市	
	高雄市 （台湾）	35
	ラ・ロマーナ市 （ドミニカ共和国）	39
3	便利情報	
	和暦西暦対応表	43

1 海外姉妹・友好都市

長野県の海外姉妹・友好都市

資料提供：（一財）自治体国際化協会

都 市 名	提 携 都 市 名	国 名	提 携 年 月 日	提 携 理 由 等
長 野 県	ミ ズ ー リ 州	ア メ リ カ	1965 年 4 月 1 日	昭和38年秋東京で開かれた日米知事会 議 後 の 長 野 県 訪 問 が 契 機
	河 北 省	中 国	1983 年 11 月 11 日	昭和52年「日中友好長野県民の翼」の 中 国 訪 問 が 契 機
長 野 市	ク リ ア ウ ォ ー タ ー (フ ロ リ ダ 州)	ア メ リ カ	1959 年 3 月 14 日	昭和31年市長が渡米、ク市訪問記念にメダル贈与、これに対し感謝状を送った。
	石 家 庄 市 (河 北 省)	中 国	1981 年 4 月 19 日	地形、気候、農業が似通っていて、昭和55年に申入れをした。
上 田 市	寧 波 市 (浙 江 省)	中 国	1995 年 2 月 9 日	竜洞院前住職の村上氏の永年の交流が契機。平成4年国際交流研究委員会からの提言があった。
	ブルームフィールド市郡 (コ ロ ラ ド 州)	ア メ リ カ	2001 年 5 月 24 日	平成8年から5年連続で訪れていた国際教育団体アップウィズピープルの本部があったことを契機に交流を開始した。
	ダ ボ ス 町	ス イ ス	1976 年 3 月 25 日	菅平高原は50年間日本ダボスの愛称で親しまれ、ダボスに申入れをした。
岡 谷 市	マウント・プレザント (ミ シ ガ ン 州)	ア メ リ カ	1965 年 6 月 14 日	マ市で岡谷市にペンパルを持つ人が指名、申し込まれた。
飯 田 市	シャルルヴィル メ ジ ョ ー ル	フ ラ ン ス	1988 年 8 月 5 日	人形劇の街同士日本ウニマの働きかけ。及びウニマ（国際人形劇連盟）事務局所在地のため。
諏 訪 市	ヴェルグル市 / ク ン ド ル 町	オーストリア	1960 年 9 月 27 日	日奥協会、林元知事らの斡旋により選ばれた。
	セ ン ト ル イ ス (ミ ズ ー リ 州)	ア メ リ カ	1974 年 9 月 23 日	県姉妹関係で西沢元知事の仲介、工業がともに盛ん
	ア ン ボ ワ ー ズ	フ ラ ン ス	1987 年 3 月 4 日	駐仏大使と交友のあった元セイコーエプソン社長の仲介
須 坂 市	四 平 市 (吉 林 省)	中 国	1994 年 5 月 12 日	平成3年県日中友好協会を通じ交流要望あり。友好訪問で交流を深め、平成6年3月議会で議決
伊 那 市	通 州 区 (北 京 市)	中 国	1994 年 11 月 22 日	平成3年から交流開始。市議会の代表、商工会議所、農協、市民らで構成する訪問団を毎年派遣している。
駒ヶ根市	ボ カ ラ 市	ネ パ ー ル	2001 年 4 月 18 日	山岳観光都市としてのつながりで平成9年より交流を開始した。
大 町 市	インスブルック	オーストリア	1985 年 3 月 15 日	スキーを通じ動物交換（ニホンカモシカ・アルプスマーモセット）をした。
	メ ン ド シ ー ノ (カ リ フ ォ ル ニ ア 州)	ア メ リ カ	1980 年 5 月 31 日	旧美麻村の文化センター創立者とメ村アートセンター創立者の仲介により交流が深まった。
飯 山 市	深セン市福田区 (広 東 省)	中 国	2012 年 7 月 10 日	深セン外国語学校と、飯山市内中学校との交流が契機
茅 野 市	ロ ン グ モ ン ト (コ ロ ラ ド 州)	ア メ リ カ	1990 年 5 月 25 日	地形、人口規模、産業構造の類似性から申し込まれた。
塩 尻 市	ミ シ ャ ワ カ (イ ン デ ィ ア ナ 州)	ア メ リ カ	1972 年 6 月 5 日	昭和39年小学校児童の絵画、版画、毛筆作品を贈り姉妹校提携したことが契機
佐 久 市	ア バ ロ ン	フ ラ ン ス	1976 年 7 月 14 日	昭和49年仏で禅の布教者から市内知人の住職に紹介した。
	サ ク 市	エストニア	2007 年 5 月 1 日	同じ名前ということで、駐日エストニア大使の紹介で交流を開始した。
	ス フ バ ー ト ル 区 (ウ ラ ン バ ー ト ル 市)	モ ン ゴ ル	2008 年 8 月 4 日	平成18年「モンゴル国建国800年記念」に際して佐久市の熱気球とパイロット派遣したことがきっかけで交流を深める。

都 市 名	提 携 都 市 名	国 名	提 携 年 月 日	提 携 理 由 等
東御市	マ ド ラ ス (オレゴン州)	ア メ リ カ	2005 年 6 月 24 日	旧立科町を訪れたオレゴン市の一行にマドラス市の人があり、姉妹都市提携を希望した。
	カ フ ー ル モ ル ド バ	モ ル ド バ	2017 年 10 月 6 日	平成29年7月のホストタウンがきっかけ
安曇野市	ク ラ ム ザ ッ ハ	オーストリア	2007 年 11 月 4 日	あずみ野ガラス工房をもつ旧豊科町と本場ガラス工芸の町との縁
川 上 村	ワ ト ソ ン ビ ル (カリフォルニア州)	ア メ リ カ	1988 年 10 月 9 日	昭和60年野菜生産先進地との交流を熱望し、米国駐在日本人農業コンサルタントに仲介を依頼
南牧村	ラ・トリニダッド町	フィリピン	2014 年 9 月 19 日	農業研修生の受入れを機に交流を開始
	ブ ギ ア ス 町	フィリピン	2025 年 10 月 17 日	同 上
	ツ ブ ラ イ 町	フィリピン	2025 年 10 月 17 日	同 上
軽井沢町	カンボス・ド・ ジ ョ ル ド ン	ブ ラ ジ ル	1968 年 7 月 16 日	ジ市に住む日本人が気候風土が類似していることにより紹介
	ウ イ ス ラ ー (ブリティッシュ・コロンビア州)	カ ナ ダ	1999 年 3 月 3 日	長野五輪カーリング競技でカナダの女子が優勝、男子が準優勝したが、軽井沢町が会場になったことがきっかけ
立 科 町	オ レ ゴ ン 市 (オレゴン州)	ア メ リ カ	1974 年 9 月 4 日	昭和45年から国際学級を毎年開催、オ市からも参加
青 木 村	ナムチェ・バザール村	ネ パ ー ル	2004 年 5 月 22 日	シェルパの本拠地でもあるナ村と観光・文化・教育面で交流を希望
下諏訪町	開 封 市 (河 南 省)	中 国	2002 年 4 月 22 日	中国北宋時代に建設された水駆動による大型天文時計装置「水運儀象台」を平成9年、諏訪湖時の科学館「儀象堂」に復元したことを機に交流開始
富士見町	リ ッ チ モ ン ド	ニュージーランド	1993 年 10 月 28 日	人材育成海外派遣事業により、平成2年から中学生の相互派遣で交流
原 村	プ ケ コ ヘ 区 (フランクリン市)	ニュージーランド	2002 年 7 月 26 日	平成9年から始まったホームステイをきっかけに提携、野菜栽培が共通点
辰 野 町	ワイトモディストリクト	ニュージーランド	1995 年 3 月 30 日	豊南女子短大生の留学を通じた交流とホテルの生息地同士ということが縁
飯 島 町	フ ェ ラ ー ス	ブ ラ ジ ル	1975 年 5 月 20 日	町出身フ市在住者が仲介し、申入れ
泰 阜 村	ハルピン市方正県 (黒 竜 江 省)	中 国	1997 年 9 月 27 日	村から送られた旧満州開拓団が終戦前の避難先としてこの地に定住したという声がかきつけに友好提携
大 桑 村	シエルビービル (イリノイ州)	ア メ リ カ	1997 年 8 月 6 日	石川島播磨重工業が両地に工場を持ち、平成5年から交流
松 川 村	鹿 港 鎮 (影 化 縣)	台 湾	2013 年 6 月 12 日	鹿港ロータリークラブと交流のある松本西南ロータリークラブの仲介により
白 馬 村	レ ッ ヒ	オーストリア	2001 年 7 月 12 日	平成7年から八方地区とスキーを通しての交流が発展し友好提携を実施
	オーバーヴィーゼン タ ー	ド イ ツ	2002 年 8 月 18 日	平成10年の長野冬季五輪をきっかけに友好提携を実施
小 谷 村	マ ー ル ボ ロ ウ	ニュージーランド	1991 年 1 月 16 日	両市村はともにアウトバウンドスクールの分校があるため
	オタリ・セントメ ー	イ ギ リ ス	1992 年 5 月 4 日	オタリという名称が同じことから交流を実施
坂 城 町	満 城 県 (河 北 省)	中 国	2000 年 11 月 3 日	河北大学等により日中共同研究が同町を対象に行われたのをきっかけに提携
山ノ内町	密 雲 市 (北 京 市)	中 国	2007 年 4 月 27 日	県日中から勧められたことがきっかけで平成12年から交流を開始
	ベ イ ル 町 (コロラド州)	ア メ リ カ	2018 年 1 月 25 日	平成28年8月阿部長野県知事のコロラド州訪問を契機に県が仲介により
	サン・ジェルヴェ レ ・ バ ン	フランス	2025 年 1 月 8 日	スキー場や温泉を通じた交流先を探していたところ、在リヨン事務所より仲介
野沢温泉村	サンクト・アントン	オーストリア	1971 年 2 月 7 日	オーストリアのスキー指導者が来村し指導、その出身村

松本市の海外姉妹・友好都市

1 連絡先

都 市 名	住 所	TEL/FAX/HP
ソルトレークシティ	Salt Lake City Corporation 451 South State Street Salt Lake City, UT84111 USA	TEL:1-801-535-7704 (Mayor's Office) FAX:1-801-535-6331 HP:www.slc.gov
カトマンズ市	Kathmandu Metropolitan City Bagdurbar, Kathmandu, Nepal	TEL:977-1-4231-481 FAX:977-1-4268-509 HP:www.kathmandu.gov.np
廊 坊 市	中国河北省廊坊市金光道20号	TEL:86-316-233-9390 FAX:86-316-213-9216 HP:www.lf.gov.cn
グリンデルワルト村	Gemeindeverwaltung Spillstattstrasse 2, Postfach 104 3818 Grindelwald, Switzerland	TEL:41-33-854-1414 FAX:41-33-854-1415 HP:www.grindelwald.ch

2 提携時について

都 市 名	年 月 日	代 表 者
ソルトレークシティ	1958年11月29日 調印ではなく、 ソ市から金製の鍵が贈られた	松本市長 降旗 徳弥 名古屋アメリカ文化センター館長 (マッカーサー駐日大使代理) スチュアート・J・ポハセック
カトマンズ市	1989年11月17日	松本市長 和合 正治 議 長 大槻 政彦 カトマンズ市長 サラダ・プラサド・バタライ 事務次官 デリー・プラカス・ギミレ
廊 坊 市	1995年3月21日	松本市長 有賀 正 議 長 百瀬 常雄 廊坊市長 王 高鵬 廊坊市人民代表大会常务委员会主任 任 聯飛
グリンデルワルト村	2005年5月16日 松本市と姉妹交流継続に合意 1972年4月20日 旧安曇村と姉妹村提携	松本市長 菅谷 昭 議 長 渡辺 聡 グリンデルワルト村長 アンドレアス・スチューダー グリンデルワルト村書記長 フリッツ・ローナー

海外姉妹・友好都市 歴代首長

年	松本市	ソルトレークシティ (提携67周年)	カトマンズ市 (提携36周年)	廊坊市 (提携30周年)	グリンデルワルト村 (提携53周年) *
1957	降旗 徳弥 (1957～1969)	Adiel F. Stewart (1956～1959) 姉妹提携 (1958) J. Bracken Lee (1960～1971)			
1969	深沢 松美 (1969～1976)	Jake Garn (1972～1975) Conrad B. Harrison (1975～1975)			姉妹提携 (1972) * ※旧安曇村
1976	和合 正治 (1976～1992)	Ted Wilson (1976～1985) Palmer DePaulis (1985～1992)	Sharada Prasad Bhattarai (1986～1990) 姉妹提携 (1989) P. L. Singh		
1992	有賀 正 (1992～2004)	Deedee Corradini (1992～2000) Rocky Anderson (2000～2008)	(1991～1997) Keshav Sthapit (1997～2002) ※2002年7月から政府派遣 Shiva Bhakta Sharma	王 高鵬 (1995～1997) 友好提携 (1995) 王 輔捷 (1997～1999) 孫 建群 (1999～2002) 呉 顕国 (2002～2003) 王 愛民 (2003～2011)	
2004	菅谷 昭 (2004～2020)	Ralph Becker (2008～2016) Jackie Biskupski (2016～2020)	Surya Sharan Regmi Surya Prasad Silwal Krishna Prasad Devkota Hem Sharma Pokharel Padam Raj Regmi Dinesh Prasad Thapaliya Narayan Gopal Malego Niranjana Baral Ganesh Rai Ananda Raj Pokharel Ganesh Rai Kedar Bahadur Adhikari Laxman Aryal Dhan Bahadur Shrestha Rudra Sing Taman Bidya Sunder Shakya (2017～2022)	聶 瑞平 (2011～2013) 馮 韶慧 (2013～2016) 陳 平 (2016～2019) 趙 革 (2019～2020)	Andreas Studer (2004～2007) 姉妹提携 (2005) ※合併による Emanuel Schläppi (2008～2016) Christian Anderegg (2016～2020)
2020	臥雲 義尚 (2020～)	Erin Mendenhall (2020～)	Balendra Shah (2022～) Sunita Dangol (2026～)	楊 燕偉 (2020～2022) 李 国勇 (2022.9～2023.7) 劉 媛 (市長代理) (2023.7～2024.1) 劉 媛 (2024.1～)	Beat Bucher (2020～)

ソルトレークシティの概要・市との交流

アメリカ合衆国ユタ州の州都ソルトレークシティとの姉妹都市提携は、1958年11月29日日本で13番目という早い時期に結ばれ、2023年に65周年を迎えました。

戦前よりソルトレークシティと関係が深かった故村山 有氏（旧制松本中学卒）が両市を仲介し、戦後、姉妹提携運動が盛んになるにしたがって、両市の姉妹提携の機運も次第に高まり、提携に至りました。

両市の関係は、多くの市民の熱意に支えられ、2団体（アメリカ国際姉妹都市協会・国際親善都市連盟）から4度の表彰を受けています。

1 都市概要

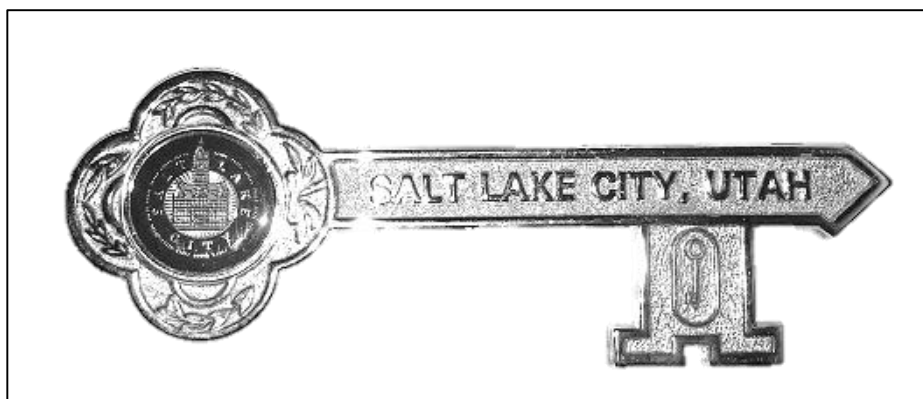
A 人	口	約21万人												
B 面	積	約286km ²												
C 平 均 標 高	1,288m													
D 時	差	-15時間（冬-16時間）												
E 距	離	8,900km												
F 気	候	（気温=℃、降水量=mm）												
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		11.1	12.8	21.7	28.9	30.6	41.7	40.0	38.3	36.1	27.8	19.4	13.9	26.8
最 低 気 温		-8.3	-5.6	-4.4	-1.1	5.0	7.8	19.4	10.0	5.6	0.6	-3.3	-10.0	1.3
降 水 量		22.6	45.5	39.2	45.6	17.1	2.5	5.7	58.0	4.1	89.9	8.2	41.3	31.6
G 主 な 産 業	観光													
H 特 産 物	鉱産物													
I 市	長	エリン・メンデンホール（Erin Mendenhall）氏、2020.1～												

2 提携理由など

- (1) 気候・風景・地形など、自然環境が似ていること
- (2) アメリカ合衆国シアトル生まれ、旧制松本中学校卒、ソルトレークシティ名誉市民である村山有氏の仲介
- (3) 戦時中、在米日本人がソルトレークシティに大変お世話になったことから、在ソ日本人らが交流を強く望んだため。

3 合意書

ソルトレークシティについては、合意書の調印はせず、ソルトレークシティから金製の鍵を贈られたことで提携の証としています。



4 表 彰

アメリカ国際姉妹都市協会（リーダーズ・ダイジェスト財団協賛）

① 1967年

② 1981年

③ 1983年

国際親善都市連盟

④ 1987年

5 提携・交流団体

年 月	松 本 市	ソ 市
1976年 7月	松本商工会議所 松本青年会議所 松本深志ライオンズクラブ 松本地区ガールスカウト	ソ市商業会議所 ソ市青年会議所 ローズパーク・ライオンズクラブ ソ市ガールスカウト
1976年 7月	長野放送	K S Lテレビ
1978年 7月	信州大学	ユタ大学
1979年 10月	松本地区ボーイスカウト	ソ市ボーイスカウト
1991年 5月	市民タイムス	デザレットニュース
1998年 7月	松本市立旭町中学校	ヒルサイド・インターミディエイト・スクール

6 松本市ソルトレークシティ姉妹提携委員会概要

1977年3月に松本市をはじめ姉妹提携を結んだ各団体をもって姉妹都市提携委員会を組織し、名誉会長に松本市長、会長に商工会議所会頭、専務理事に本郷松本商工会議所専務理事をあて、事務局を松本商工会議所内において設立されています。

官民協調方式による姉妹提携活動を推進しているが、運営の実態は民間主導型で進められ、行政財政的なサポートを主としています。

会員数 ： 35 （2026年1月現在）

7 交流事業

(1) 公式訪問団

ソルトレークシティへ			松本市へ		
1974年	23名	15周年記念訪問団	1966年	15名	市民団
1976年	43名	市民団	1968年	15名	市民団
1978年	40名	20周年記念訪問団	1975年	29名	市民団
1983年	26名	25周年記念訪問団	1978年	38名	市民団
1986年	36名	市民団	1981年	46名	市民団
1988年	33名	30周年記念訪問団	1983年	42名	市民団
1991年	231名	市民団	1987年	30名	市民団
1992年	30名	市民団	1990年	20名	市民団
1993年	60名	35周年記念訪問団	1993年	60名	市民団
1994年	11名	市民団	1998年	67名	長野冬季五輪視察団
1996年	48名	市民団	2007年	2名	市制施行100周年記念式典
1998年	35名	40周年記念訪問団	2008年	17名	50周年記念訪問団
2002年	34名	市民団	2013年	7名	55周年記念訪問団
2003年	23名	45周年記念訪問団	2024年	22名	65周年記念訪問団
2008年	41名	50周年記念訪問団			
2013年	21名	55周年記念訪問団			
2018年	29名	60周年記念訪問団			
2023年	19名	65周年記念訪問団			
計 783名			計 410名		

(2) 市民訪問団

ソルトレークシティへ			松本市へ		
1966年	10名	才能教育研究会	1960年	18名	ユタ大 学
1979年	36名	才能教育研究会	1972年	10名	ユタ大 学
1979年	12名	ボーイスカウト	1974年	10名	ユタ大 学
1980年	5名	農協青年団	1976年	10名	ユタ大 学
1981年	10名	松本スキークラブ	1984年	22名	ユタ大 学
1981年	8名	ボーイスカウト	1991年	5名	ユタ大 学
			1992年	6名	ユタ大 学
			2001年	2名	世界岳都都市会議
			2008年	8名	市民団
			2018年	13名	市民団
計 81名			計 104名		

(3) 学生交流

ソルトレークシティへ（国際生活スクール） 高校生を中心に夏期体験研修のためソ市派遣				松 本 市 へ		
第1回	1979年	48名	18日間	1984年	12名	高 校 生
第2回	1980年	36名	17日間	1985年	31名	中 学 生
第3回	1981年	24名	18日間	1986年	10名	中 学 生
第4回	1982年	22名	16日間	1994年	5名	ブリガムヤング大学研修生
第5回	1984年	24名	17日間	1995年	7名	ブリガムヤング大学研修生
第6回	1985年	23名	18日間	1996年	7名	ブリガムヤング大学研修生
第7回	1986年	30名	16日間	1997年	5名	ブリガムヤング大学研修生
第8回	1987年	36名	16日間	1998年	3名	ブリガムヤング大学研修生
第9回	1988年	51名	16日間	1999年	4名	ブリガムヤング大学研修生
第10回	1989年	35名	15日間	2000年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第11回	1990年	40名	15日間	2001年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第12回	1991年	25名	15日間	2002年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第13回	1992年	25名	15日間	2003年	3名	ブリガムヤング大学研修生
第14回	1993年	20名	15日間	2004年	3名	ブリガムヤング大学研修生
第15回	1994年	28名	15日間	2005年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第16回	1995年	28名	15日間	2006年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第17回	1996年	27名	15日間	2008年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第18回	1997年	28名	15日間	2009年	13名	ウォーターフォード高校生（引率2名含む）
第19回	1998年	18名	15日間	2010年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第20回	1999年	12名	15日間	2011年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第21回	2000年	21名	15日間	2012年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第22回	2002年	9名	15日間	2013年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第23回	2003年	10名	15日間	2014年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第24回	2004年	12名	15日間	2015年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第25回	2005年	9名	15日間	2017年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第26回	2006年	13名	14日間			
第27回	2007年	9名	15日間			
第28回	2008年	11名	15日間			
第29回	2009年	9名	10日間			
第30回	2010年	16名	13日間			
第31回	2011年	14名	13日間			
第32回	2012年	34名	13日間			
第33回	2013年	13名	13日間			
第34回	2014年	15名	13日間			
第35回	2015年	17名	13日間			
第36回	2016年	20名	13日間			
第37回	2017年	12名	13日間			
第38回	2018年	14名	13日間			
第39回	2024年	5名	12日間			
計 843名				計 120名		

(4) 中学校教諭ユタ大学英語短期留学派遣

1972年度から1980年度まで10名派遣。1982年度から2003年度までは、上記国際生活スクールの引率責任者として松本市教育委員会から派遣された。

(5) 義援金について

- ・ 2011年4月 東日本大震災への義援金3千ドルが届いた
 - ・ 同年7月 追加の5千ドルを受領
 - ・ 同年9月 追加の2千ドルを受領
- 合計1万ドル（約80万円）を受領。松本市の義援金受付口座へ入金済

(6) 交流の歴史

ソ ル ト レ ー ク シ テ ィ へ			松 本 市 へ		
1960年	6月	下条市議会議員	1959年	10月	オルピンユタ大学総長
1962年	7月	降旗松本市長	1963年	4月	オルピンユタ大学総長夫妻
	10月	山岡市議会議員		10月	クライド夫妻（ユタ州知事）
1964年	4月	西沢長野県知事	1966年	4月	オルピン博士
1965年	1月	滝沢松本電鉄社長	1967年	7月	ファンズワースブリガムヤング大学教授
	1月	斎藤達雄（日本画家）	1968年	5月	ジョージ・L・エバンス夫妻（会社重役）
	4月	清水日体大教授（松本出身）	1969年	6月	ロバート・エルダー夫妻（ルポライター）
	10月	村山有ソルトレークシティ名誉市民	1973年	11月	レイモンド・ウノ夫妻（弁護士）
	11月	野田信大医学部教授	1974年	11月	ポーロ・カトー（ソ市姉妹委役員）
1966年	1月	篠田（陶芸家）	1975年	3月	ラマー・ファーンズ夫妻（ソ市動物園長）
		古市（洋画家）		7月	リール・ファーンズ夫妻（ユタ州下院議員）
		小岩井（日本画家）		8月	フレッド・ボール夫妻（ソ市商議所専務）
1966年	10月	鈴木才能教育研究会会長		12月	ジャコブ・ガーン夫妻（米上院議員）
1974年	7月	深沢市長、赤羽副議長、本郷商議所専務	1978年	5月	テナアン夫妻（ユタ大学美術学部長）
1975年	11月	降旗長野放送社長		10月	オルピン博士夫妻、アシュトン商議所 会頭、フレッド・ボール商議所専務
1976年	7月	和合市長、大槻市議会副議長、 河野商議所会頭、浜商議所副会頭 本郷商議所専務	1979年	2月	アバント女史（デザレット新聞記者）
		降旗長野放送社長、上村助役、 本郷商議所専務		7月	テッド・ウィルソン市長
	9月	加藤信州大学学長		9月	フレッド・ボール（ソ市姉妹委員長）
1979年	4月	鈴木才能教育研究会会長夫妻	1981年	7月	マーチ・ミラー女史（ソ姉妹提委役員）
		穂苅商議所副会頭			フレッド・ボールソ市商議所専務
	6月	本郷商議所専務		9月	アボット夫妻（K S L テレビ副社長）
1981年	10月	千葉信州大学医学部講師	1982年	11月	スプリングマイヤー夫妻（ソ姉妹委員長）
	11月	浜商議所会頭、本郷商議所専務、 森商議所議員、小島商議所議員	1983年	9月	アリス・カサイ（ソ姉妹委役員）
1983年	7月	矢崎市議会議長、小林助役、 本郷商議所専務	1984年	3月	レノックス・ティアニー夫妻 （ユタ大学美術学部長）
		和合市長、小原副議長、本郷商議所専務		3月	ピーターソン・マクワイヤー（ソ市役所部長）
1983年	7月	和合市長、小原副議長、本郷商議所専務	1987年		パルマー・デボーリス夫妻（市長）、 フレッド・ボール夫妻（ソ市商議所専務） バーバラ・レビ（ソ姉妹委員長）
1987年	7月	市職員坪田明男、島村晃研修派遣（2カ月）	1988年	10月	スプリングマイヤー家族
1988年	7月	和合市長、百瀬議員	1989年	6月	リサ・カサイ女史
1989年	5月	井上商議所会頭、本郷商議所専務、金井 市長公室長	1990年	9月	パルマー・デボーリス市長
		和合市長、小笠原議長、井上商議所会頭、 栗林商議所副会頭	1991年	11月	フレッド・ボールソ市商議所専務
1991年	5月	和合市長、小笠原議長、井上商議所会頭、 栗林商議所副会頭	1993年	9月	ゴドフリー市会議員、フレッド・ボール ソ市商議所専務
1992年	10月	松村助役	1995年	11月	フレッド・ボールソ市商議所専務
1993年	10月	松村助役、小林副議長、井上商議所会頭	1997年	5月	トム・ウェルチ S L O C 会長
1996年	5月	有賀市長夫妻、高山副議長、 本郷商議所専務	1998年	2月	ディーディー・コラディーニ市長、 ブライス・ジョリー市議会議長夫妻、 パスタンリー・リッシュソ市商議所会頭他
		有賀市長夫妻、百瀬市議会議長夫妻、 山口商議所副会頭		3月	ディーディー・コラディーニ市長
1998年	7月	有賀市長夫妻、百瀬市議会議長夫妻、 山口商議所副会頭	1999年	9月	市職員ランディー・テラー、 ランディー・イズベル
1999年	4月	市職員公保靖彦研修派遣（1年）	2000年	10月	ロジャー・トンブソン市会議員夫妻
2001年	1月	有賀市長	2001年	10月	デイブ・ビューラー市議会副議長夫妻
2002年	2月	有賀市長夫妻、酒井市議会議長、池田 商議所国際委員長、吉澤商議所理事	2003年	3月	住宅公社職員ビル・ナイスウォンガー夫妻 子息
2003年	7月	萩原助役、上條市議会議長、松下商議所 専務夫妻	2005年	8月	ティム・チャンプレス夫妻（ソ市企画部長） 令嬢
2008年	7月	菅谷市長、大久保市議会議長	2006年	8月	ライザ・スプリングマイヤー
		井上商議所会頭	～2008年7月		（国際交流アドバイザー）
2013年	7月	菅谷市長、太田市議会議長	2007年	4月	市職員グエン・スプリングマイヤー夫妻
		井上商議所会頭		9月	ハイムバーガー（州経済振興部アジア局長）
2018年	7月	菅谷市長、上條市議会議長	2008年	6月	スプリングマイヤー夫妻他6名
		井上商議所会頭		9月	ラルフ・ベッカー市長、ヴァン・ターナー議員夫妻 JT・マーティン議員、ナタリー・ゴクノー ソ市商議所最高執行責任者、 ブレット・ハイムバーガー（ユタ州経済開発局 アジア部長）、エツコ・フリーマン ソ市姉妹都市 松本代表、ジョー アン ソ市姉妹都市委員 ケビン・アオヤギ ソ市姉妹都市委員 その他9名
2023年	7月	臥雲市長、上條市議会議長	2013年	8月	カイル・ラマルファ議長、他ソ市幹部職員等6名
		赤羽商議所会頭、斉藤商議所副会頭	2015年	4・8月	トモコ・モーゼス氏等8名（交流関係者）
				10月	ジェンダー・モラレス・コラゾ氏ほか1名
			2016年	2・4月	ジョシュア・ジョー氏、ロス・チェンバレス氏、 郁恵・チェンバレス氏等
				6・7月	アリス・カサイ氏、 ユニス・カトウ氏ご家族一行（ポーロ・カトウ氏ご令嬢）
			2018年	10月	グエン・スプリングマイヤー氏 （国際生活スクール担当者、ソ市0B）一行13名
			2023年	6月	ロス・チェンバレス氏（ソ市姉妹委員長） 郁恵チェンバレス氏
			2024年	10月	エリン・メンデンホール市長等22名

※その他、A E T（Assistant English Teacher）としてソ市から多くの若者の受入れ実施

カトマンズ市の概要・市との交流

ネパール連邦民主共和国の首都カトマンズ市との姉妹都市提携は、1976年、当時の駐日大使 B. P. シュレスタ氏が来松した際、北アルプスを背景とした松本平の風景がカトマンズ盆地に似ており岳都同士の縁を感じ、打診がされたことがきっかけです。

オイスカインターナショナル中野良子総裁の仲介により、ネパール王国皇室カドカ殿下が、1986年松本市で開催された国際アルピニスト大会へ参加された際にも、提携の要望がされるなど、10年以上の歳月を経て、1989年11月17日に提携となりました。

1 都市概要

A 人	口	約170万人												
B 面	積	約51km ²												
C 平 均 標 高	1,331m（カトマンズ盆地）													
D 時	差	-3時間15分												
E 距	離	約5,000km												
F 気	候	（気温＝℃、降水量＝mm）												
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		23.8	25.4	28.7	32.4	32.7	31.7	31.5	31.4	31.8	31.6	24.8	23.1	29.0
最 低 気 温		1.3	1.0	7.3	8.7	19.5	17.0	19.4	19.0	17.0	10.6	6.3	2.6	10.8
降 水 量		0.0	1.1	16.6	34.5	135.6	288.3	501.6	289.9	313.0	104.0	0.0	48.0	144.3
G 特 産 物	手透き紙、セーター、カーペット、紅茶、仏具、仏像、パシュミナ製品													
H 市 長	バレンドラ・シャー(Balendra Shah)氏、2022.5～													

2 提携理由など

- (1) 日本の岳都と世界の岳都、「山と山」のつながりというわかり易く親しみやすい機縁があること
- (2) アジア圏に新しい姉妹都市を得たいとする市民世論に合致すること
- (3) 互いにアジア圏の国として、歴史・文化・宗教などに共通する親しみが多く、登山・観光・学術・ボランティアなどを通じ、市民・県民レベルの交流が育っていたこと
- (4) 距離・交通・宿泊などの便宜に問題なく、豊かな自然環境にめぐまれ、さかんな市民交流が期待できること
- (5) 双方に姉妹都市提携に対する理解と熱意があり、機が熟していること

3 合意書



合意書内容：

日本国長野県松本市とネパール王国首都カトマンズ市とは教育・文化・人的な交流及び相互の経済協力を通じて、両国間の相互理解と友好を深め、市民福祉の増進を図り、さらに、両市の親善を促進し、もって、両国及び世界の平和と繁栄に貢献することを希求し、ここに姉妹都市として提携することに合意する。 1989年11月17日

4 提携・交流団体

現在正式に提携を結んでいる団体はありませんが、1999年に松本市からの訪問団が姉妹都市提携10周年記念訪問をした際に訪れたバンヌバクター学校の生徒から、松本市内の学生と交流したいという要望があり、2000年1月松本市立信明中学校が受入れを希望し、交流が始まりました。2000年7月には、バンヌバクター学校の教員3名と生徒13名が来松し、信明中学校との交流を深めました。また、2006年にはカトマンズ盆地の各学校から教員2名を含む17名が来松し、ホームステイなど様々な交流を行いました。

5 松本市カトマンズ市姉妹提携委員会概要

カトマンズ市と姉妹都市提携をしてから半年後の1990年5月に、カトマンズ・ネパールを愛する多くの市民の協力により、設立が実現されました。経済的な立場、生活習慣や宗教の違いを越え、人と人とのあたたかい交流を目指して、研修生の受入れやネパール文化の紹介に協力しています。

2012年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降カトマンズ部会として活動しています。

部会員数：個人会員 8 団体会員 18 (2026年1月現在)

6 交流事業

(1) 公式訪問団

カ ト マ ン ズ 市 ヘ			松 本 市 ヘ		
1990年	26名	1 周 年 記 念 訪 問 団	1999年	6名	10 周 年 記 念 訪 問 団
1991年	29名	2 周 年 記 念 訪 問 団	2004年	4名	15 周 年 記 念 訪 問 団
1992年	17名	3 周 年 記 念 訪 問 団	2007年	5名	市制施行100周年記念式典
1994年	32名	5 周 年 記 念 訪 問 団	2009年	7名	20 周 年 記 念 訪 問 団
1996年	25名	7 周 年 記 念 訪 問 団			
1999年	43名	10 周 年 記 念 訪 問 団			
2002年	39名	市 民 団			
2006年	18名	外交関係樹立50周年記念 (15 周 年 延 期 の 為)			
2011年	24名	20 周 年 記 念 訪 問 団			
2015年	3名	カトマンズ市救援募金贈呈			
2016年	27名	外交関係樹立60周年記念			
2018年	3名	カトマンズ小学校へ支援物資贈呈			
2019年	2名	ネパール政府観光PR事業へ参加			
2019年	19名	30 周 年 記 念 訪 問 団			
2024年	19名	35 周 年 記 念 訪 問 団			
計 326名			計 22名		

(2) 市民訪問団

カ ト マ ン ズ 市 ヘ			松 本 市 ヘ		
1990年	26名	市 民 訪 問 団	1995年	20名	市 民 団
1990年	11名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会	2000年	17名	学 生 訪 問 団
1991年	8名	オ イ ス カ	2001年	6名	市 民 団
1991年	8名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会	2001年	4名	世 界 岳 都 都 市 会 議
1994年	40名	提 携 委 員 会	2006年	16名	学 生 訪 問 団
1995年	14名	提 携 委 員 会	2007年	14名	学 生 訪 問 団
2003年	20名	松 本 柔 道 協 会	2010年	20名	学 生 訪 問 団
2005年	2名	提 携 委 員 会	2014年	6名	市 民 団
2011年	13名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会	2025年	8名	市 民 団
2012年	13名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会			
2014年	6名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会			
2014年	9名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会			
2015年	6名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会			
2020年	13名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会			
2024年	9名	松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会			
計 198名			計 111名		

7 交流の歴史

(1) カトマンズ市へ

年 月	主 な 内 容
1990 年 11月	姉妹都市提携1周年記念訪問団26名（名誉団長船津市議会副議長、団長小平収入役）が訪問し、13日ホテルアンナプルナで1周年記念式典祝賀会を開催した。
1990 年 12月	姉妹都市提携1周年記念市民訪問団26名が訪問した。
1990 年 12月	年末年始を利用して、ヒマラヤ友好会メンバー11名が訪問し、ロールワリン山群でトレッキングを行った。
1991 年 7月	オイスカ主催植林ボランティアに県内から8名が参加し、カトマンズ市を表敬訪問した。
1991 年 11月	姉妹都市提携2周年記念市民訪問団29名が訪問した。
1991 年 12月	年末年始を利用して、ヒマラヤ友好会メンバー8名が訪問し、ジョムソン・ムクチナートでトレッキングを行った。
1992 年 11月	林市長公室長を団長に、姉妹都市提携3周年記念訪問団17名が訪問した。
1994 年 11月	姉妹都市提携5周年記念市民訪問団32名（団長有賀松本市長）が訪問し、植林事業やレセプションで友好親善を深め、「クリーン・グリーン・ヘルシーカトマンズ」建設に向け、植林基金50万円を贈呈した。
1994 年 12月	姉妹都市提携5周年記念事業として、松本市カトマンズ市姉妹提携委員を含む参加者40名がエベレストトレッキングを行った。
1995 年 12月	12月29日～1月6日、姉妹提携委員を含む参加者14名がアンナプルナ・ダウラギリ方面へのトレッキングを行った。
1996 年 10月	10月26日～11月1日、姉妹提携7周年を記念し、松村助役を団長に市民訪問団を組織し、一行25名が公式親善訪問した。
1999 年 11月	18～24日、姉妹提携10周年を記念して、有賀市長を団長に過去最多の43名が公式訪問した。
2002 年 1月	15～21日、カトマンズ市武道館竣工を記念して、有賀市長を団長に39名の市民訪問団が公式訪問した。
2003 年 1月	4～8日、カトマンズ市武道館竣工1周年を記念して、第3回国際親善ネパール学生柔道大会が開催され、松本柔道協会の百瀬壱副会長を団長に学生5名を含む、20名が訪問した。
2005 年 11月	19～23日、ネパール王国及びカトマンズ市の状況を視察するため、姉妹提携委員会は鈴木幹事（団長）、百瀬壱幹事（団員）の2名を派遣し、市役所や大使館、JICA事務所等を訪問した。
2006 年 11月	17～22日、平成16年の姉妹提携15周年の訪問が中止になっていたため、日本ネパール外交関係樹立50周年を記念し、坪田助役を団長に18名が公式訪問した。
2009 年 11月	姉妹提携20周年訪問は、新型インフルエンザの世界的大流行、ネパールの政情不安により中止した。
2011 年 11月	13～17日、延期となっていた提携20周年の公式訪問を坪田副市長を団長に24名で実施した。
2015 年 8月	18～20日、ネパール大地震（4月25日発生）で被災したカトマンズ市の復興を支援するため、松本市海外都市交流委員会と連携して募金活動に取り組み、松本市救援金（200万円）と合わせて、1,000万円をカトマンズ市政府に贈呈した。松本市政策部長、政策部職員、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長が訪問した。
2016 年 12月	18～22日、日本ネパール外交関係樹立60周年を記念し、菅谷市長を団長に27名が公式訪問した。震災復興状況の視察や記念植樹、松本市紹介写真展を行ったほか、武道館出身のリオ五輪出場柔道選手のカトリさんと面会をした。

年 月	主 な 内 容
2018 年 1月	20～24日、松本市海外都市交流委員会で取り組んだチャリティー活動の売上を学用品に代え、現地学校へ贈呈するため、松本市政策部長、政策部職員、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長が訪問した。
2019 年 9月	11～17日、ネパール政府観光客誘客キャンペーンPR事業へ参加ため、松本市政策部職員2名が訪問した。
2019 年 11月	11～15日、姉妹提携30周年を記念し、副市長を団長に19名が公式訪問した。カトマンズ市長表敬、松本市内中学校と交流のあるバンヌバクタ学校を訪問したほか、震災被害から復興し、再建された武道館にて柔剣道大会を開催した。
2024 年 11月	11～15日、姉妹提携35周年を記念し、臥雲市長を団長に19名が公式訪問した。豪雨・地滑り（同年9月発生）に対する海外都市交流委員会からの救済金20万円を寄付した。

(2) 松本市へ

年 月	主 な 内 容
1990 年 9月	カトマンズ市都市計画、建設技術担当のデビンドラ・ドンゴル氏を招待し、日本の日常生活・行政の実態などを体験・研修により相互理解を深めた。
1992 年 10月	ネパール経済ミッション（団長ネパール工業省N. K. バスネット氏）が来松し、長野県松本文化会館で「ネパール投資セミナー」を開催した。（松本側参加者 約50社）
1992 年 11月	P. L. シン市長、B. B. マリ市議会議員が訪問した。カトマンズ市職員デビンドラ・ドンゴル氏がJICA研修のため松本市を訪問した。
1994 年 10月	「国際砂防フォーラム in 松本」にP. L. シン市長とマナンドール議員を招聘。歓迎レセプションを開催し交流を深めた。
1994 年 11月	アジア太平洋地域姉妹都市会議に出席したP. L. シン市長とシュレスタ議員を招聘し、地方都市視察事業を実施した。
1995 年 4月	JICA研修員として来松した、ネパール王国森林土壌保全省のボウデル次官他2名の歓迎レセプションを開催し、交流を深めた。
1995 年 12月	6～11日、カトマンズ市よりバルシャラム・バンドリ氏を団長とする市議会議員等20名が来松し、歓迎会や視察研修で友好親善を深めた。
1997 年 10月	12～13日、当市で研修経験があるカトマンズ市職員デビンドラ・ドンゴル氏が研修で来日した際、当市での施設見学や歓迎会を実施し、交流を深めた。
1997 年 11月	26～27日、横浜市での国際会議に来日したマイナリ助役とキャンデール秘書が来松し、施設見学や歓迎会で交流を深めた。
1998 年 5月	高崎経済大学附属経済研究所主催の第29回市民開放講演会に講師として来日したケシャブ・スタピット市長ら8名が来松し交流を深めた。
1999 年 9月	20～24日、姉妹提携10周年を記念して、スタピット市長以下6名が公式訪問した。
2000 年 5月	屋久島で開催となった世界自然遺産会議に出席するため来日した、市長秘書のシシール・マナンドール氏が来松し、交流を深めた。
2000 年 7月	16～22日、カトマンズ市の私立バンヌバクター校のタクリ校長を団長に、教師2名、生徒13名及び通訳2名の計17名が来松し、信明中学校との交流や市内施設見学、舞踊公演等で交流を深めた。
2000 年 11月	5～11日、カトマンズ市建築課職員のビマール・リジャル氏が来松し、武道館設計のための研修を行った。
2001 年 9月	18～21日、カトマンズ市議会議員6名が来松し、交流を深めた。
2001 年 10月	6～10日、ケシャブ・スタピット市長夫妻他4名が世界岳都都市会議に出席のため来松した。

年 月	主 な 内 容
2002 年 12月	15～25日、ナレシュ・クマール・レグミ総務部副部長はじめ、カトマンズ盆地開発事業本部（KVMP）の職員4名の計5名が研修のため来松した。
2004 年 3月	15～18日、カトマンズ市武道館管理運営委員会のラクミ・トゥラダール氏とケシャブ・ダンゴル氏が研修のため来松した。
2004 年 10月	17～20日、クリスナ・プラサド・デヴェコタ市長代理他3名が、姉妹提携15周年記念公式親善訪問団として来松した。
2006 年 6月	15～16日、国内での国際会議に來日したケシャブ・スタピット元市長他1名が、来松し交流を深めた。
2006 年 9月	4～15日、私立バンヌバクター校の教師ブッディ・カルキ氏を団長に、教師1名、市職員1名、中高生14名からなるカトマンズ市学校交流団が来松し、市内視察や信明中学校・県ヶ丘高校訪問、ホームステイ等で市民と交流を深めた。
2007 年 2月	18～20日、カトマンズ市都市開発部長のディベンドラ・ドンゴル氏が京都での気候変動会議出席後來松し、廃棄物処理や都市計画等について研修を行った。
2007 年 6月	22～25日、第50回全日本花いっぱい松本大会（第6回世界大会）にあわせ、ガネッシュ・プラサド・バッターライ カトマンズ市副市長代理を団長とする、カトマンズ市公式親善訪問団一行5名が来松した。
2007 年 11月	21～27日、私立バンヌバクター校教師ブッディ・カルキ氏を団長に、選手10名、コーチ1名、引率2名計14名からなるカトマンズ市学生柔道選手団が来松し、第12回醍醐敏郎杯全国少年柔道練成大会へ出場、また信明中学校訪問等で交流を深めた。
2010 年 2月	7～9日、ガネッシュ・ライ市長代理他計7名が、姉妹都市提携20周年記念公式親善訪問団として来松した。その後ライ市長代理は、北九州市で行われた環境会議に出席した。
2010 年 10月	27～30日、カトマンズ市をはじめとするネパール学生訪問団、中高生14名、教師・引率6名の計20名が来松し、環境問題学習としてクリーンセンター、宮渕浄化センター等を視察し、また信明中学校を訪問し交流を深めた。
2014 年 2月	3～5日、カトマンズ市ナヤバザー地区の事務局長、以下職員5名が来松し、クリーンセンター等を視察した。
2020 年	姉妹提携30周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。
2025 年 4月	26～28日、ネパール剣道連盟会長をはじめ計8名の市民訪問団が来松し、市民スポーツ大会剣道部門や道場の視察、市長表敬訪問を行った。

(3) その他

年 月	主 な 内 容
1992 年 1月	パタン市の歯科医カルナ・サキヤ氏が、あめ市でネパール曼荼羅展を開催した。
1992 年 3月	姉妹提携委員会からカトマンズ市役所へファックス機を贈呈した。
1992 年 7月	ネパール王国駐日大使B. P. ディタール博士を迎え、「姉妹提携3周年記念のつどい」を開催した。
1993 年 7月	国宝松本城400年まつり会場内の「姉妹都市館内」へカトマンズブースを設置し、カトマンズ市の紹介に努めた。
1993 年 11月	本年7月の南アジア大洪水で被災したカトマンズ市へ、災害見舞金を贈呈した。

年 月	主 な 内 容
1994 年 10月	姉妹都市提携5周年記念事業として、井上アネックスパート2で開催した内田良平氏撮影のヒマラヤ・カトマンズ等の写真展を後援した。
1995 年 6月	広島市で開催された「世界平和連帯都市市長会議・アジア太平洋地域会議」に主席したカトマンズ市代表团（ジョン副市長他3名）の歓迎レセプションに市長公室長が出席し、交流を深めた。
1995 年 9月	12日中央公民館において、駐日ネパール大使の参加を得て、講演と映画で構成する「ネパールの夕べ」を行った。
1995 年 10月	姉妹提携6周年を迎えて、多くの市民が撮影した写真をパネル化し、5～10日「第一回市民参加ネパール写真展」を開催した。（応募者数41名、作品数282点）
1997 年 2月	姉妹提携7周年記念として、シタール奏者スシュマ・オマタさんらをお招きして、「シタールの夕べ」を開催。また、ケダル・バクタ・マテマ駐日ネパール大使夫妻も同日来松した。
1997 年 9月	10～17日、ネパール民族音楽舞踊団を招聘し、松本市及び長野市において公演を行うことにより、文化交流を通じての相互理解を促進し、長野冬季五輪関連事業への協力を行った。
1999 年 7月	19～25日、姉妹提携10周年事業の一環として節目の年を祝うとともに、市民のカトマンズ市への理解を深めていただくためにMウイングを主会場にカトマンズ・ウィークを開催した。
1999 年 11月	19日、姉妹提携10周年記念訪問の際に行われた歓迎レセプションで、カトマンズ市への武道館建設に伴う合意書の調印がなされた。
2001 年 2月	28日、姉妹提携10周年記念の一環として、松本市から贈呈されることとなったカトマンズ市武道館の起工式を行った。
2002 年 1月	16日、市民からの募金等により完成したカトマンズ市武道館の竣工式を行い、橋本元首相が出席。松本市からも訪問団39名が出席した。
2002 年 5月	17日、ネパールの国民的歌手ラム・クリシュナ・ダカール氏が来松し、信明中学校で音楽会を開催した。
2003 年 12月	22日、カトマンズ市武道館建設事業が総務大臣表彰（世界に開かれたまち部門）を受賞した。
2003 年 4月	1日から、カトマンズ市武道館のコーディネーターとして白井有紀氏をJICA職員としてカトマンズ市へ派遣した。
2003 年 4月	19～20日、の2日間、Mウイング2階展示ギャラリーにおいて、写真展「王宮写真家が見たカトマンズ」を開催しキラン・マン・チトラカール氏他2名が来松した。
2004 年 10月	13～27日、市役所3階渡り廊下において、NP0法人松本ヒマラヤ友好会の協力によりネパール王国とカトマンズ市を紹介する写真展を開催した。
2004 年 11月	9～14日、Mウイング2階展示ギャラリーにおいて、NP0法人松本ヒマラヤ友好会の協力により、ネパール王国とカトマンズ市を紹介する写真展を開催した。
2005 年 2月	2月24日～3月1日、井上デパート催事場において開催された、NP0法人松本ヒマラヤ友好会主催の設立15周年記念展の運営補助をした。

年 月	主 な 内 容
2005 年 3月	姉妹提携15周年を記念して、松本城に松本市とカトマンズ市の市章をあしらったピンバッジを作成し、会員他関係各所に配布した。
	昭和企業様からいただいた10万円のご寄付を元に、姉妹提携15周年の記念の意味も込めて、カトマンズ市武道館に剣道竹刀と柔道着を送付した。
	愛知県内の関係者を通じて寄付された剣道用具を中心に、姉妹提携委員会が送料を負担して、カトマンズ市武道館へ送付した。
2008 年 2月	松本ヒマラヤ友好会の招へいにより、会主催の写真展への参加及び、カトマンズ市長賞表彰のためカトマンズ市から訪問団が13名来松。姉妹提携委員会共催による講演会等を実施した。
2008 年 11月	27～28日、駐日ネパール特命全権大使のガネシュ・ヨンザン・タマン夫妻が来松し、松本ヒマラヤ友好会主催、姉妹提携委員会共催により、交流会と歓迎夕食会を開催した。
2009 年 7月	4日、駐日ネパール大使館主催により、松本市において「松本市カトマンズ市姉妹提携20周年記念祝賀会」が開催された。祝賀会にあわせてカトマンズ市職員3名も来松し、6日まで市内を視察した。
2012 年 4月	13日、駐日ネパール大使館のマダン・クマール・バッタライ特命全権任命大使が来松し、菅谷市長を表敬した。
2014 年 10月	19日、駐日ネパール大使館のマダン・クマール・バッタライ特命全権任命大使が姉妹都市提携25周年を記念して来松、菅谷市長を表敬した。
2015 年 5月	ネパール地震カトマンズ市救援募金（5月1日～12月31日）を松本市海外都市交流委員会と連携して、実施。募金総額 8,436,641円を市救援金の2,000,000円と合わせてカトマンズ市政府へ贈呈した。
2016 年 8月	10～11日、駐日ネパール大使館の臨時代理大使のクリシュナ・チャンドラ・アリヤル公使参事官を第1回「山の日」記念全国大会記念式典にお招きした。
2016 年 10月	19日、松本ヒマラヤ友好会写真展表彰式出席のため、駐日ネパール大使館の臨時代理大使のクリシュナ・チャンドラ・アリヤル公使参事官が来松した。松本市と松本市海外都市交流委員会、松本ヒマラヤ友好会の共催で歓迎会を開催した。
2019 年 11月	姉妹提携30周年を記念して、市内小中学校にてネパール特別給食を実施。
2023 年 7月	駐日ネパール大使館のドゥルガ・バハドゥール・スベディ特命全権大使が来松し、臥雲市長を表敬した。
2023 年 9月	19日、駐日ネパール大使館主催の建国記念祝賀会に市長代理として市職員と松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会が出席した。
2024 年 6月	1日、松本ヒマラヤ友好会写真展表彰式出席のため、ドゥルガ・バハドゥール・スベディ特命全権大使夫妻が来松し、松本市と松本市海外都市交流委員会の共催で歓迎会を開催した。
2024 年 11月	姉妹提携35周年を記念して、市内小中学校及び、養護学校にてネパール特別給食を実施。松本城ウィークにて、姉妹都市紹介ブースを実施。
2025 年 10月	7日、ネパール講座に出席のため、ドゥルガ・バハドゥール・スベディ特命全権大使夫妻が来松し、翌日市長表敬訪問を行った。

廊坊市の概要・市との交流

中華人民共和国河北省廊坊市との友好都市提携は、市民や松本日中友好協会からの要望などがきっかけとなり進められました。１９９４年には、松本市中国友好都市調査団が派遣され候補となった３都市から廊坊市が選ばれ、１９９５年３月２１日に提携となりました。

提携後、相互の訪問や廊坊市から研修生の受入れ等を実施しています。

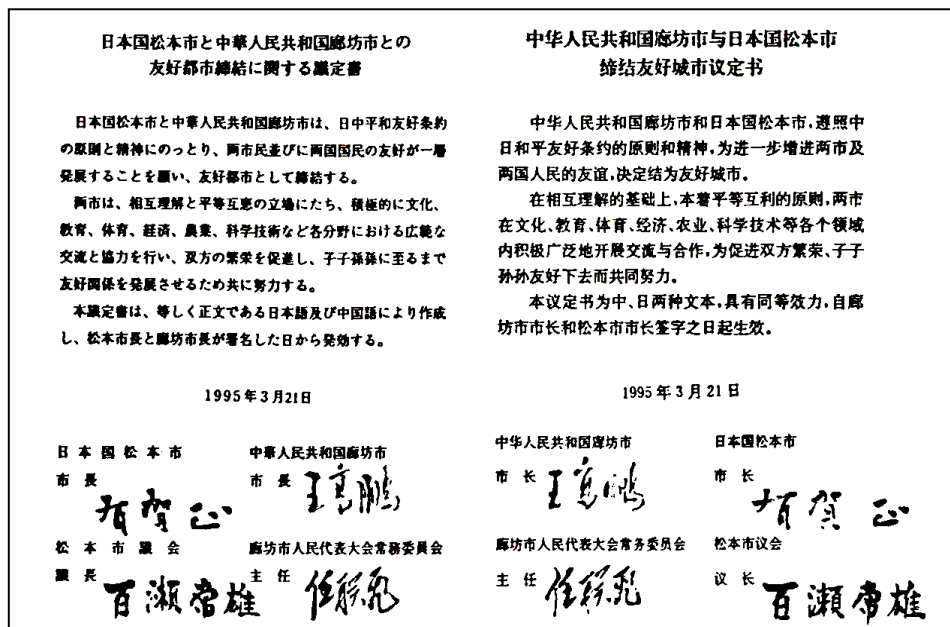
1 都市概要

A 人	口	約550万人												
B 面	積	約6,429km ²												
C 平 均 標 高		13.8m												
D 時	差	－1時間												
E 距	離	約1,900km												
F 気	候	(気温＝℃、降水量＝mm)												
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		8.6	25.6	24.8	27.9	32.9	37.3	34.2	33.8	31.1	23.9	18.4	13.9	26.0
最 低 気 温		-19.6	-8.9	-3.4	12.3	3.9	11.9	17.2	17.4	13.6	-0.2	-5.5	-11.6	2.2
降 水 量		0.8	17.6	21.2	1.6	16.9	39.8	244.6	137.9	141.3	48.1	19.7	3.3	57.7
G 主 な 産 業		情報産業、ビックデータクラウドストレージ、バイオ医薬品、空港物流、観光業												
H 特 産 物		小豆、梨、メロン、なつめ、ピータン、いちご、首飾り												
I 市 長		劉 媛 (リュウ エン) 氏、2024.1～												

2 提携理由など

- (1) 今までの海外都市交流の経験から、中国の中心都市である北京市にできるだけ近い都市を選定することで、経済的にも日程上からも有効に中国滞在ができること
- (2) 廊坊市は、内陸に立地した軽工業、機械工業が盛んで、松本市の産業形態と類似点が多く民間の経済投資の可能性を秘めており、日本からの進出企業も多く、交流を進める上で心強い支えとなること
- (3) 松本市が「教育文化都市」を標榜しているのに対し、廊坊市は「科学研究・文化都市」を標榜していること
- (4) 廊坊市のある河北省は、長野県と友好関係を結んでいること

3 議定書



議定書内容：

日本国松本市と中華人民共和国廊坊市は、日中平和友好条約の原則と精神にのっとり、両市民並びに両国国民の友好がいつそう発展することを願い、友好都市として締結する。

両市は、相互理解と平等互恵にたち、積極的に文化、教育、体育、経済、農業、科学、技術など各分野における広範な交流と協力をを行い、双方の繁栄を促進し、子々孫々に至るまで友好関係を発展させるために共に努力する。

本議定書は、等しく正文である日本語及び中国語により作成し、松本市長と廊坊市長が署名した日から発効する。

1995年3月21日

日本国松本市
市 長 有 賀 正
松本市議会
議 長 百 瀬 常 雄

中華人民共和国廊坊市
市 長 王 高 鵬
廊坊市人民代表大会常務委員会
主 任 任 聯 飛

4 提携・交流団体

年 月	松 本 市	廊 坊 市
1996 年 7月	並 柳 小 学 校	第 五 小 学 校
1996 年 7月	開 成 中 学 校	第 六 中 学 校
1996 年 11月	相 澤 病 院	市 人 民 病 院
1997 年 3月	清 水 中 学 校	第 二 中 学 校
1997 年 7月	さ さ べ 幼 稚 園	第 二 幼 稚 園
2000 年 10月	寿 小 学 校	第 十 二 小 学 校

5 松本市廊坊市友好提携委員会概要

廊坊市との交流事業等をより円滑に運営するため、1998年10月に廊坊市からの第2次公式訪問団の来松にあわせ、設立されました。

同年夏に起こった長江大洪水に対しては、廊坊市も支援活動を行っていたことから、設立間も提携委員会からも、義援金の送付を行い、復興に貢献をしました。

両市の交流促進のため、写真展や音楽会など様々な事業を実施しています。

また、2000年から隔年で提携委員会主催となる市民訪問団を組織し、廊坊市を訪問しています。2012年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され、「松市海外都市交流委員会」が発足しました。以降、廊坊部会として活動しています。

部会員数 ： 個人会員20 団体会員6 （2026年1月現在）

6 交流事業

(1) 公式訪問団

廊 坊 市 へ			松 本 市 へ		
1995年	28名	第1次公式親善訪問団	1996年	13名	第1次公式親善訪問団
1997年	34名	第2次公式親善訪問団	1998年	6名	第2次公式親善訪問団
1999年	36名	第3次公式親善訪問団	2000年	11名	第3次公式親善訪問団
2001年	37名	第4次公式親善訪問団	2002年	10名	第4次公式親善訪問団
2003年	30名	第5次公式親善訪問団	2004年	10名	第5次公式親善訪問団
2005年	37名	第6次公式親善訪問団	2006年	7名	第6次公式親善訪問団
2008年	13名	第7次公式親善訪問団	2007年	10名	第7次公式親善訪問団
2010年	17名	第8次公式親善訪問団	2009年	6名	第8次公式親善訪問団
2015年	14名	第9次公式親善訪問団	2011年	6名	第9次公式親善訪問団
2025年	15名	第10次公式親善訪問団	2025年	11名	第10次公式親善訪問団
計 261名			計 90名		

(2) 市民訪問団

廊 坊 市 へ			松 本 市 へ		
1995年	20名	松本法人会	1996年	5名	医学交流訪日団
1996年	16名	地域開発研究会	1998年	6名	市民団
1996年	4名	相澤病院	1998年	6名	市民団
1996年	14名	運を掴む	1999年	4名	経済交流訪日団
1996年	43名	松本日中友好協会	1999年	5名	学校訪問団
1997年	21名	松本ゲートボール協会	2001年	2名	世界岳都市会議
1997年	8名	松本卓球連盟	2008年	8名	医療交流団
1997年	46名	才能教育研究会	2010年	6名	親善訪問団
1998年	8名	市民訪問団	2012年	6名	教育シンポジウム関係者
2000年	5名	市民訪問団	2014年	6名	廊坊市人民医院
2000年	10名	松本日中友好協会	2018年	4名	県日中友好都市中学生卓球交流大会
2000年	35名	市民訪問団	2023年	3名	県日中友好都市中学生卓球交流大会
2000年	28名	第1回提携委員会			
2000年	4名	市民訪問団			
2001年	18名	松本日中友好協会			
2001年	21名	市民訪問団			
2002年	39名	第2回提携委員会			
2004年	36名	第3回提携委員会			
2006年	29名	第4回提携委員会			
2009年	19名	第5回提携委員会			
2012年	7名	日中卓球交歓大会			
2017年	4名	日中卓球交歓大会			
2018年	15名	松本日中友好協会			
2019年	8名	廊坊市友好都市卓球交歓大会			
2025年	5名	日中卓球交歓大会			
計 463名			計 61名		

(3) 研修生

松 本 市 へ					
1998年	5月	4名	(農業 2名、医療 2名)		
1999年	5月	4名	(農業 2名、行政 2名)		
2000年	5月	4名	(農業 2名、医療 2名)		
2001年	5月	4名	(農業 2名、接客 2名)		
2002年	5月	4名	(医療 2名、接客 2名)		
2003年	7月	2名	行政		
2004年	5月	2名	農業		
2005年	6月	2名	接客		
2009年	5月	3名	(行政 1名、接客 2名)		
計 29名					

7 交流の歴史

(1) 廊坊市へ

年	月	主 な 内 容
1995 年	7月	7～11日、有賀市長を団長とする第1次「友好都市廊坊市公式親善訪問」一行28名が廊坊市を公式親善訪問し、議会の表敬訪問、そして学校や工場など市内視察や市民との交流を行い、各所で熱烈歓迎を受けた。
1995 年	9月	松本市を中心に活動している「中国語を学ぶ会」の有志4名が、9月16日廊坊市を表敬訪問し、民間レベルでの交流を深めた。
1995 年	9月	キッセイ薬品工業の神澤邦雄会長を団長に、百瀬常雄市議会議員を特別顧問にした(社)松本法人会一行20名が22日～28日、松本平の民間経済団体としては初めて廊坊市を訪問した。
1996 年	5月	19～20日、第2次松本市民間訪問団（地域開発研究会）16名が訪問した。
1996 年	6月	21～23日、第3次松本市民間訪問団（相澤病院）4名が訪問した。
1996 年	9月	19～20日、第4次松本市民間訪問団（運を掴む）14名が訪問した。
1996 年	11月	15～16日、第5次松本市民間訪問団（松本日中友好協会）43名が訪問した。
1997 年	5月	25～26日、第6次松本市民間訪問団（松本ゲートボール協会）21名が訪問した。
1997 年	7月	11～15日、松村助役を団長に、松本市第2次廊坊市公式親善訪問団一行34名が訪問。研修生の相互受入に関する協定等を締結した。
1997 年	8月	23～25日、第7次松本市民間訪問団（松本卓球連盟）8名が訪問した。
1997 年	10月	8～9日、第8次松本市民間訪問団（才能教育研究会）46名が訪問した。
1998 年	10月	24～28日、萩原社会部長を団長とした河北省主催経済交流・合作商談会松本市派遣代表団一行8名が訪問した。（第9次松本市民間訪問団）
1999 年	10月	11～16日、有賀市長を団長に松本市第3次廊坊市公式親善訪問団36名が友好提携5周年を記念して訪問した。
2000 年	3月	20～23日、友好提携5周年を記念して桜を贈呈するために、松村助役を団長に5名が訪問した。
2000 年	10月	6～9日、第12次松本市民間訪問団（西経会30周年記念）35名が訪問した。
2000 年	10月	24～28日、提携委員会として初めての訪問事業として、百瀬常雄会長を団長に、28名が訪問した。（第13次松本市民間訪問団）
2000 年	12月	20～24日、第14次松本市民間訪問団4名が訪問した。
2001 年	3月	13～17日、第15次松本市民間訪問団（松本日中友好協会20周年記念）18名が訪問した。
2001 年	7月	2～5日、第16次松本市民間訪問団（J A松本ハイランド役員研修）21名が訪問した。
2001 年	10月	22～27日、萩原助役を団長に松本市第4次廊坊市公式親善訪問団37名が訪問した。
2002 年	10月	10月28日～11月1日、百瀬常雄会長を団長に、2回目の提携委員会主催の訪問事業として39名が訪問した。

年 月	主 な 内 容
2003 年 10月	17～23日、有賀市長を団長に松本市第5次廊坊市公式親善訪問団30名が訪問した。
2004 年 10月	11～16日、百瀬常雄会長を団長に、3回目の提携委員会主催の訪問事業として36名が訪問した。
2005 年 10月	10～15日、菅谷市長を団長に松本市第6次公式親善訪問団37名が訪問した。11日には廊坊市人民公園に友好提携10周年を記念し、桜の苗木100本を植樹した。
2006 年 10月	16～20日、百瀬常雄会長を団長に、4回目の提携委員会主催の訪問事業として29名が訪問した。
2007 年 7,8月	7月30日～8月6日、日中国交正常化35周年を記念した日中友好都市小学生卓球交歓大会が行われ、松本市と廊坊市の合同チームが参戦し、決勝トーナメント3位に入賞した。
2008 年 10月	9～15日、坪田副市長を団長に松本市第7次公式訪問団13名が訪問した。
2009 年 10月	12～16日、百瀬常雄会長を団長に、5回目の提携委員会主催の訪問事業として19名が訪問した。
2010 年 6月	6月28日～7月1日、坪田副市長を団長に松本市第8次公式訪問団17名が訪問した。
2012 年 8月	19日～21日、日中国交正常化40周年を記念し北京市で開催された日中友好都市中学生卓球交歓大会へ選手団7名を派遣、廊坊市と合同でブロック優勝をした。
2015 年 11月	23日～28日、菅谷市長を団長に提携20周年を記念し、松本市第9次公式訪問団14名が訪問した。
2017 年 8月	4日～6日、日中国交正常化45周年を記念し北京市で開催された日中友好都市中学生卓球交歓大会へ選手団4名を派遣、廊坊市と合同のチームで試合に臨んだ。
2018 年 9月	5日～8日、日中平和友好条約締結40周年記念事業として、松本市日中友好協会相澤孝夫会長を団長とする一行15名が廊坊市を訪問した。
2019 年 7月	7月28日～31日、廊坊市主催で初開催される友好都市卓球交流大会へ選手団8名を派遣、廊坊市と合同チームで参加し、好成績を収めた。
2021 年	友好提携25周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。
2025 年 8月	1日～8日、北京市で開催される卓球交流大会へ選手団5名を派遣、「松本市・廊坊市チーム」として参加した。
2025 年 11月	友好都市30周年を記念して、11日～15日、臥雲市長を団長に松本市第10次公式訪問団15名が訪問した。

(2) 松本市へ

年 月	主 な 内 容
1996 年 4月	20～24日、廊坊市医学交流訪日団（第1次民間交流訪日団）5名が来松した。
1996 年 7月	2～9日、張成起中国共産党廊坊市委員会書記を団長に第1次廊坊市公式親善訪問団一行13名が来松した。
1998 年 2月	12～14日、第2次民間交流訪日団6名（長野オリンピック視察団）が来松した。
1998 年 10月	4～16日、陳百旺人民代表大会常務副主任を団長に第2次廊坊市公式親善訪問団一行6名が来松した。
1998 年 11月	18～19日、第3次民間交流訪日団6名が来松した。
1999 年 6月	2～3日、廊坊市経済交流訪日団4名が来松した。
1999 年 8月	4～9日、廊坊市第二中学校の副校長及び生徒5名が来松。友好提携校の清水中学校を訪問し、友好を深めた。

年 月	主 な 内 容
2000 年 10月	9～12日、王学軍廊坊市人民政府委員会議事長を団長に第3次廊坊市公式親善訪問団一行11名が来松した。
2001 年 10月	6～10日、薛伯昌廊坊市人民政府委員会議事長他1名が、世界岳都都市会議と併せて開催された姉妹都市交流会のため来松した。
2002 年 10月	16～20日、張国斌廊坊市人民政府委員会議事長を団長に第4次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。
2004 年 9月	17～20日、楊新建廊坊市人民政府委員会議事長を団長に第5次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。
2006 年 10月	8～9日、王愛民廊坊市人民政府市長を団長に第6次廊坊市公式親善訪問団一行7名が来松した。
2007 年 6月	22～23日、第50回全日本花いっぱい松本大会（第6回世界大会）にあわせ、王増力中国共産党廊坊市人民政府委員会議事長を団長に第7次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。
2008 年 1月	17～18日、呉立法中国共産党廊坊市人民政府委員会議事長を団長とする、廊坊市医療交流団一行8名が来松した。
2009 年 5月	28～30日、范永録中国共産党廊坊市人民政府委員会議事長を団長に第8次廊坊市公式親善訪問団一行6名が来松した。
2010 年 8月	26、27日、廊坊市外事弁公室蘇副主任を団長とする親善訪問団一行6名が来松した。
2011 年 9月	9月30日～10月1日、廊坊市人民政府、饒 貴華（じょうきか）副市長を団長とする親善訪問団一行6名が来松した。
2012 年 7月	21日、教育シンポジウムの開催のため、廊坊市の教育局、友好提携小中学校4校教員6名が松本日中友好協会の交流する葫蘆島市の教育関係者6名とともに来松した。
2013 年 5月	11日、程永華（ていえいか）大使が来松、菅谷市長と懇談、県営松本空港、上高地等を視察した。
2014 年 5月	9日、駐日中国大使夫人 汪婉（おうえん）参事官が来松、坪田副市長と懇談、講演等を行った。
2014 年 9月	30日、駐日中国大使館の韓志強（かんしきょう）公使一行7名が来松、坪田副市長と懇談、市内視察を行った。
2015 年 9月	26日、公益社団法人 日中友好協会と駐日中国大使館が共催する日中友好をテーマにした秋季セミナーで程永華（ていえいか）駐日中国大使一行40名が来松、松本市長、副市長が出席した。
2018 年 8月	16日～20日、長野市で開催される卓球交流大会に廊坊市選手団4名が来松、「松本市・廊坊市チーム」として参加した。
2021 年	友好提携25周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。
2023 年 8月	17日～21日、長野市で開催される卓球交流大会に廊坊市選手団3名が来松、「松本市・廊坊市チーム」として参加した。
2025 年 5月	13日～15日、友好提携30周年を記念して、廊坊市人民政府、張春燕（ちょう しゅんえん）副市長を団長とする親善訪問団一行11名が来松した。

(3) 研修生

年 月	主 な 内 容
1998 年 5月	平成9年に締結した協定に基づき、13日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協で、医療2名は相澤病院でそれぞれ6カ月間の研修をした。
1999 年 5月	13日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協で6カ月間、行政2名は松本市役所で4カ月間の研修をした。
2000 年 5月	24日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協と市農協で、医療2名は相澤病院でそれぞれ6カ月間の研修をした。
2001 年 5月	23日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協と市農協、接客2名はホテルブエナビスタでそれぞれ6カ月間の研修をした。
2002 年 5月	22日に研修生4名が来松し、医療2名は相澤病院で、接客2名はホテルブエナビスタでそれぞれ6カ月間の研修をした。
2003 年 7月	22日に研修生2名が来松し、行政2名が松本市役所で4カ月間研修した。 (SARSのため来松が2カ月延期)
2004 年 5月	26日に研修生2名が来松し、農業2名が松本ハイランド農協と市農協で6カ月間の研修をした。
2005 年 6月	24日に研修生2名が来松し、接客2名がホテルブエナビスタで6カ月間の研修をした。
2009 年 5月	20日に研修生3名が来松し、行政1名が松本市役所で接客2名がホテルブエナビスタで6カ月間の研修をした。

(4) その他

年 月	主 な 内 容
1998 年 10月	6日、松本市廊坊市友好提携委員会設立。(15団体 199名)また、長江流域等大洪水の義援金2,548,689円を廊坊市を通して被災地に贈呈した。
2025 年 5月	友好提携30周年を記念し、食育の一環として、市内小中学校及び、養護学校にて中国料理の特別給食を実施。

グリンデルワルト村の概要・市との交流

スイス連邦ベルン州グリンデルワルト村との姉妹都市提携は、1972年4月20日の旧安曇村との姉妹提携がきっかけです。2005年4月1日に松本市と旧安曇村とが合併したことを受け、合併の合意事項である「姉妹都市となっている場合は、相手都市の意向を確認し、新市の姉妹都市とする」との調整方針に基づき、2005年5月16日、新たに松本市との姉妹都市交流事業を継続していくことになりました。

長年の友好関係を引継ぎ、今後は国際観光などの分野でさらなる交流の発展が望まれています。

1 都市概要

A 人 口		約4, 0 0 0人												
B 面 積		約1 7 2 k㎡												
C 平 均 標 高		1, 0 3 4m												
D 時 差		－ 7時間 （冬 － 8時間）												
E 距 離		約 9, 7 0 0 km												
F 気 候		(気温＝℃、降水量＝mm)												
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	1 0月	1 1月	1 2月	年間平均	
最 高 気 温	-6.4	-5.0	-1.4	1.9	5.8	10.7	13.1	13.3	9.8	6.0	-0.9	-5.3	3.5	
最 低 気 温	-13.0	-12.7	-9.1	-5.6	-1.8	2.5	4.7	4.9	1.6	-2.2	-7.5	-11.5	-4.1	
降 水 量	145	128	135	133	157	172	191	173	142	137	163	159	153	
G 主 な 産 業		観光												
H 特 産 物		酪農製品												
I 村 長		ベアート・ブッヒャー (Beat Bucher) 氏、2020.1～												

2 提携理由など（旧安曇村の提携当時）

- (1) 国際的に有名なアルプスを控えたグリンデルワルト村と姉妹提携を結び、教育、文化、産業、観光及びスキー技術の交流をもとに相互理解を高めつつ、平和で自然を愛する住民の福祉を増進させ、あわせて国際親善に役立てることとする。
- (2) 冬季札幌オリンピックの際、スイスのノルディック種目の監督として来日したローランドルーディン氏（グリンデルワルト村のリフト会社社長）の意向をうけた、当時の日本交通公社副社長 兼松 学氏の紹介による。
- (3) 地域内に国際的に有名なアルプスを抱えており、共に山岳観光とスキーの自治体であること、また人口や予算規模も同程度であり、自然に恵まれた景観を大切にしていること。

3 合意書



合意書内容：

日本国長野県松本市とスイス連邦ベルン州ベルナーオーバーラント グリンデルワルト村とは、引き続き姉妹都市としての交流に合意することを光榮とし、友好と文化を基盤に、環境・教育・観光など各分野の相互の協力を推進して、両国及び世界の平和と繁榮に貢献します。

2005年5月16日

松本市長
菅 谷 昭
松本市議会議長
渡 辺 聡

グリンデルワルト村長
ドレス・スチューダー
グリンデルワルト村書記長
フリッツ・ローナー

4 松本市グリンデルワルト村姉妹提携委員会概要

グリンデルワルト村との姉妹都市交流をさらに深めていくため、行政・関係団体及び市民が一体となり、国際交流を推進することを目的に、2005年10月24日に設立しました。2012年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され、「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降、グリンデルワルト部会として活動しています。

部会員数 ： 個人会員22 団体会員8 (2026年1月現在)

5 交流事業

(1) 公式訪問団

グリンデルワルト村へ(合併前)			安曇村へ(合併前)		
1975年	27名	公 式 訪 問 団	1974年	5名	公 式 訪 問 団
1982年	11名	10 周 年 記 念 訪 問 団	1977年	17名	公 式 訪 問 団
1992年	70名	20 周 年 記 念 訪 問 団	1987年	26名	15 周 年 記 念 訪 問 団
2002年	57名	30 周 年 記 念 訪 問 団	1992年	35名	20 周 年 記 念 訪 問 団
			1997年	25名	25 周 年 記 念 訪 問 団
			2002年	29名	30 周 年 記 念 訪 問 団
計 165名			計 137名		
グリンデルワルト村へ(合併後)			松本市へ(合併後)		
2006年	40名	公 式 訪 問 団	2005年	25名	公 式 訪 問 団
2011年	25名	公 式 訪 問 団	2007年	14名	市制施行100周年記念式典
2014年	41名	公 式 訪 問 団	2010年	20名	公 式 訪 問 団
2017年	23名	公 式 訪 問 団	2014年	31名	公 式 訪 問 団
			2017年	26名	公 式 訪 問 団
			2022年	17名	公 式 訪 問 団
計 129名			計 133名		
総計 294名			総計 270名		

(2) 市民訪問団

グリンデルワルト村へ(合併前)			安曇村へ(合併前)		
1995年	20名	市 民 訪 問 団	1993年	29名	市 民 団
1997年	31名	市 民 訪 問 団	1994年	12名	市 民 団
2002年	14名	乗 鞍 ス キ ー ク ラ ブ	2000年	10名	市 民 団
2003年	15名	ア ル プ ホ ル ン 愛 好 会	2000年	23名	市 民 団
計 80名			計 74名		
グリンデルワルト村へ(合併後)			松本市へ(合併後)		
2009年	20名	提携委主催第1回親善訪問	2012年	5名	役 場 ・ 観 光 局 関 係 者
2013年	30名	松本ヒマラヤ友好会	2013年	5名	役 場 ・ 観 光 局 関 係 者
			2014年	4名	役 場 ・ 観 光 局 関 係 者
			2015年	6名	役 場 ・ 観 光 局 関 係 者
			2016年	2名	観 光 局 関 係 者
			2022年	4名	観 光 局 関 係 者
			2024年	2名	観 光 局 関 係 者
計 50名			計 28名		
総計 130名			総計 102名		

(3) 学生交流

グリンデルワルト村へ(合併前)			松本市へ		
1985年	17名	第1回中学生派遣事業			
1988年	19名	第2回中学生派遣事業			
1991年	17名	第3回中学生派遣事業			
1994年	18名	第4回中学生派遣事業			
1997年	17名	第5回中学生派遣事業			
2000年	17名	第6回中学生派遣事業			
2003年	17名	第7回中学生派遣事業			
計 122名			計 0名		
グリンデルワルト村へ(合併後)			松本市へ(合併後)		
2006年	14名	第8回中学生派遣事業	2007年	10名	中学生ホームステイ事業
2009年	22名	中学生ホームステイ訪問事業	2016年	27名	中学生ホームステイ事業
2012年	22名	中学生ホームステイ訪問事業	2019年	30名	中学生ホームステイ事業
2015年	27名	中学生ホームステイ訪問事業	2023年	28名	中学生ホームステイ事業
2018年	22名	中学生ホームステイ訪問事業			
2024年	20名	中学生ホームステイ訪問事業			
計 127名			計 95名		
総計 249名			総計 95名		

6 交流の歴史

(1) グリンデルワルト村へ（合併前）

年 月	主 な 内 容
1975 年 6月	13～22日、福島村長一行27名が、グリンデルワルト村を公式訪問した。
1982 年 6月	14～22日、姉妹都市提携10周年を記念して、助役一行11名がグリンデルワルト村を公式訪問した。
1985 年 5月	31日、村の中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を公式訪問した。これを第1回とし、以後3年毎に継続して訪問することとした。
1988 年 4月	13日、乗鞍スキークラブ一行がグリンデルワルト村を親善訪問した。両校のスキー学校が姉妹提携をした。
1988 年 5月	29日、第2回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行19名がグリンデルワルト村を訪問した。
1991 年 5月	31日、第3回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。
1992 年 6月	4日、姉妹提携20周年を記念して、村長ほか一行70名がグリンデルワルト村を親善訪問した。
1992 年 7月	23日、スイス政府観光局が首都ベルンの連邦議事堂わきに世界の石を集めて作る『石の庭園』に、日本の代表として、安曇村の乗鞍岳と島ヶ谷の石を贈ることになり、いがやレクリエーションランドで受渡し式を挙行した。
1992 年 9月	20日、除幕式に村長が招待を受けてベルンを訪問した。
1993 年 9月	27日、松本アルプスライオンズクラブがグリンデルワルト村を訪問し、現地でグリンデルワルトライオンズクラブと姉妹提携した。
1994 年 9月	4～11日、第4回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行18名がグリンデルワルト村を訪問した。
1995 年 7月	7月29日～8月6日、歌手ラトルスネーク・アニーの呼びかけでグリンデルワルト村において『マザーマウンテンコンサート』が再度開催された。安曇村からも子供達による和太鼓とコーラスグループ12名、大人8名が参加し、子供たちはホームステイの受入れをしてもらった。
1996 年 8月	8月30日～9月5日、グリンデルワルト村建立850年記念式典に参加するため、村長を含む一般村民総勢31名がグリンデルワルト村を親善訪問した。
1997 年 8月	8月31日～9月6日、第5回中学生研修派遣事業を実施した。
1998 年 7月	10日、『グリンデルワルト村と安曇村は姉妹村です』の歓迎看板をグリンデルワルト村へ送り、駅舎に掲げた。
1999 年 1月	5日、スキーコーチ交流事業で、筒木香恵をグリンデルワルト村へ派遣した。
2000 年 9月	2～8日、第6回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。

年 月	主 な 内 容
2001 年 6月	6月30日～7月7日、姉妹提携30周年記念式典に参加するため、助役以下村民一行57名がグリンデルワルト村を親善訪問した。
2002 年 4月	5～12日、「グリンデルワルトスキークラブ100周年式典」に乗鞍スキークラブ員14名が参加した。
2003 年 6月	6月20日～10月1日、「世界最大のアルプホルンの集い」に安曇村アルプホルン愛好会一行15名が参加した。
2003 年 9月	1～6日、第7回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。

(2) 安曇村へ（合併前）

年 月	主 な 内 容
1974 年 3月	20日、グリンデルワルト村から一行5名の公式訪問を受けた。
1977 年 5月	8日、グリンデルワルト村から、ハンスベルネット村長一行17名の公式訪問を受け、安曇小中学校体育館で記念式典を開催した。
1987 年 5月	グリンデルワルト村との姉妹提携15周年記念イベント『アルプス賛歌』を、乗鞍高原を中心に開催した。
1987 年 10月	3日、姉妹提携15周年を記念して、グリンデルワルト村から村長ら一行26名の公式訪問を受け、安曇小中学校で記念式典を挙行了した。
1992 年 10月	10月25日～11月5日、姉妹提携20周年を記念して、グリンデルワルト村からA. ザイラー村長を含む一行35名の公式訪問を受けた。
1993 年 8月	4～10日、信州博覧会の『世界の子供達と歌う マザーマウンテンコンサート』に出演するため、グリンデルワルト村の子供23名と大人6名が来村した。
1994 年 10月	27～30日、安曇村開村120年にあたりボーレン副村長一行12名が来村した。上高地や涸沢へ登山した後、集落センターで開かれた記念式典に出席した。
1997 年 4月	26～28日、姉妹提携25周年記念式典に出席するため、ボーレン副村長一行25名が来村した。上高地開山祭に参加した後、乗鞍観光センターで開催された式典で友好を深めた。
1998 年 1月	1月31日～3月30日、スキーコーチ交流事業でレナーテ・リンチ、カリン・カウフマンの2名が来村した。
1999 年 1月	1月8日～3月30日、スキーコーチ交流事業でマリアンネ・エッガー、スザンネ・チャンフの2名の女性が来村した。
2000 年 5月	19～20日、Wアルプスの集いが東京で開催され、ボーレン村長以下10名が来村した。上高地アルペンホテルで歓迎会を開催した。
2000 年 10月	28～31日、村民コンサート出演のため子供コーラス16名と大人7名が来村し、村内6家庭にホームステイした。
2002 年 9月	9月29日～10月1日、姉妹提携30周年記念式典に出席するためボーレン村長一行29名が公式訪問し、乗鞍観光センターで式典を開催した。

(3) その他（合併前）

年 月	主 な 内 容
1987 年 8月	3～8日、グリンデルワルト村との姉妹提携15周年記念イベント『アルプス賛歌』を乗鞍高原を中心に開催した。また『安曇村アルプス夏期大学』や『涸沢音楽祭』などがNHKテレビで全国放映された。
2003 年 6月	11日、Wアルプスの集いが東京で開催され、グリンデルワルト村の新旧観光局長、安曇村長ほかに参加した。
2004 年 5月	13日、Wアルプスの集いが東京で開催され、グリンデルワルト村の観光局長、スイス政府観光局東京支局長、村長ほかに参加した。この集いに先立ち、在日スイス大使館が集いの参加者を昼食に招待した。

(4) グリンデルワルト村へ（合併後）

年 月	主 な 内 容
2006 年 7月	3日～8日、菅谷市長を団長とする一行40名が姉妹都市交流の継続を確認してから初めてグリンデルワルト村を公式訪問した。
2006 年 9月	4～9日、第8回中学生研修派遣事業を実施し、安曇地区の中学生12名を含む一行14名がグリンデルワルト村を訪問した。
2009 年 6月	6月26日～7月1日、小林銀一会長を団長として、提携委員会主催第1回親善訪問団一行20名がグリンデルワルト村を訪問した。
2009 年 8月	8月30日～9月4日、第1回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。
2011 年 8月	19日～24日、菅谷市長を団長に市民訪問団を組織し、一行25名がグリンデルワルト村を訪問した。シュラッピー村長から東日本大震災への義援金3万5千スイスフラン（約300万円）を託された。
2012 年 9月	3日～8日、第2回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。
2014 年 7月	3日～10日、菅谷市長を団長に公式訪問団41名がグリンデルワルト村を訪問した。（日本スイス国交樹立150周年記念）
2015 年 9月	14日～19日、第3回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、白骨地区訪問団と合同で市内の中学生25名を含む一行27名がグリンデルワルト村を訪問した。
2017 年 7月	6日～12日、菅谷市長を団長に公式訪問団23名がグリンデルワルト村を訪問した。（姉妹都市提携45周年記念）
2018 年 9月	10日～15日、第4回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。
2022 年	姉妹提携50周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。
2024 年 9月	14～20日、第5回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行23名がグリンデルワルト村を訪問した。

(5) 松本市へ（合併後）

年 月	主 な 内 容
2005 年 5月	16～18日、旧安曇村が松本市に編入合併されたことを受け、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行25名が来松し、交流の継続を確認する合意書に調印した。
2007 年 4月	4月30日～5月2日、松本市の市制施行100周年を記念し、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行14名が来松し、記念式典等に参加した。
2007 年 5月	5～10日、グリンデルワルト村中学生ホームステイの受入れを行い、中学生6名を含む一行10名が安曇地区等でホームステイや地元の中学生との交流を行った。
2009 年 11月	4日、日本語観光案内所の安東夫妻が来松し、市長を表敬した。
2010 年 10月	1日～3日、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行20名が来松した。
2012 年 5月	19日～21日、シュラッピー村長を団長に一行5名が来松した。
2013 年 11月	11日～12日、シュラッピー村長を団長に一行5名が来松した。
2014 年 9月	9月30日～10月4日、日本スイス国交樹立150周年を記念し、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行31名が来松し、記念式典等に参加した。

年 月	主 な 内 容
2014 年 11月	11月29日～12月2日、シュラッピー村長を団長に一行4名が来松した。
2015 年 11月	27日～29日、シュラッピー村長を団長に一行6名が来松した。
2016 年 5月	10日～14日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団27名（中学生21名、引率6名）が来松、ホームステイのほか鉢盛、安曇、大野川中学校で交流を行った。
2017 年 4月	25～28日、姉妹都市提携45周年を記念し、クリスチアン・アンデレック村長を団長に26名が来松した。乗鞍での交流や、上高地開山祭への出席等を行った。
2019 年 5月	8日～12日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団30名（中学生25名、引率5名）が来松、ホームステイのほか安曇、大野川中学校を訪問、交流を行った。
2022 年 10月	18～21日、姉妹都市提携50周年を記念し、プッヒャー・ベアート村長を団長に17名が来松した。松本市街地や上高地の視察等を行った。
2023 年 5月	14～18日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団28名（中学生25名、引率5名）が来松、ホームステイのほか、安曇、大野川中学校で交流を行った。

(6) その他（合併後）

年 月	主 な 内 容
2005 年 5月	20日、第6回「Wアルプスの集い」が東京、及び妙高で開かれ、アルプスに縁の深い松本市、妙高市、スイスのグリンデルワルト村、ツェルマット村の2市2村が集い、PRを行なった。本市からは助役、観光戦略本部長が参加した。
2005 年 10月	10月29日～12月23日まで開催された松本市美術館特別展「スイス・スピリッツ」展に、グリンデルワルト村姉妹都市紹介コーナーを設置して宣伝を行なった。オープン記念式典には駐日スイス大使なども参加した。
2006 年 5月	17日、第7回「Wアルプスの集い」が東京で開かれ、前回に引き続き2市2村が集い、PRを行なった。本市からは、観光戦略本部長が参加した。
2007 年 1月	15～20日、第25回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市チーム（2名）が参加した。
2008 年 1月	17～21日、第22回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム（4名）が参加した。
2009 年 1月	18～24日、第27回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市代表チーム（2名）が参加した。
2010 年 1月	21～25日、第24回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム（4名）が参加した。
2011 年 1月	17～22日、第29回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市代表チーム（2名）が参加した。
2012 年 11月	14日、前日王滝村へ視察に訪れたウルス・ブーヘル駐日スイス大使が姉妹提携の縁から来松し市長表敬訪問をした。
2013 年 2月	7日、平成26年に日本とスイスが国交を樹立して150年目を迎えることから、記念事業の一環として駐日スイス大使をお招きして、あがたの森文化会館講堂で講演会を開催した。
2014 年 10月	1日、日本スイス国交樹立150周年記念グリンデルワルト村公式訪問団の歓迎晩餐会へ、来賓としてピーター・ネルソン駐日スイス公使をお招きした。
2016 年 1月	21～25日、第30回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム（2名）が参加した。
2016 年 8月	9～12日、「山の日」記念式典へ、姉妹都市代表として観光局エッカー総監、ブルーノ局長をお招きした。
2017 年 11月	24～26日、「第7回山岳フォーラム」に出展するため、日本語観光案内所の安東所長が来松した。
2022 年 5月	23～24日、スイスPRイベントに参加のため来日中のグリンデルワルト観光局長他3名が市長表敬訪問をした。
2024 年 3月	11～12日、スイスPRイベントに参加のため来日中のグリンデルワルト観光局長他1名が来松し、歓迎夕食会を開催、宮之本副市長等が出席した。
2024 年 2月	日本語観光案内所・安東夫妻の姉妹都市交流への長年のご尽力が日・スイス間の自治体交流の推進に大きく貢献したとして、外務大臣表彰を受賞した。
2024 年 11月	日本語観光案内所・安東夫妻がグリンデルワルト村への公式訪問団及び中学生訪問団の派遣等に尽力し、親善交流の促進に貢献されているとして、松本市功労表彰を受賞した。

2 海外交流都市

高雄市の概要・市との交流

市民の健康の増進、福祉の向上、青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進するため、2015年7月14日（火）、台湾・高雄市の市政府関係者等を松本市へお迎えし、「健康・福祉教育分野の交流に関する覚書」を締結しました。

1 都市概要

A 人	口	約277万人												
B 面	積	約2,952km ²												
C 平 均 標 高	200m													
D 時	差	－1時間												
E 距	離	約2,280km												
F 気	候	(気温＝℃、降水量＝mm)												
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		22.9	23.8	26.4	29.1	31.3	32.1	32.9	32.5	32.0	30.7	27.7	24.1	28.8
最 低 気 温		14.0	15.1	17.5	21.2	25.7	25.7	26.4	26.0	25.3	23.0	19.6	15.6	21.3
降 水 量		17.3	28.1	38.5	79.5	173.6	371.5	357.7	395.1	178.0	27.8	16.7	14.4	141.5
G 主 な 産 業	化学材料、金属製品													
H 特 産 物	バナナ、ライチ、パイナップルなどの果物、海産物など													
I 市 長	陳 其邁 (チン キマイ) 氏、2020.8～													

2 覚書締結の理由など

2014年に、菅谷松本市長が高雄市を2回訪問し、陳 菊（チン キク）高雄市長との会話の中で、両市が前向きに交流を進めることに合意しました。

以来、交流に向けた協議を重ねてきましたが、市民の健康の増進、福祉の向上、青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進するため、覚書を締結しました。

3 覚書

高雄市與松本市 健康・福祉・教育領域交流備忘錄	松本市・高雄市 健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書
中華民國高雄市與日本國長野縣松本市，為增進市民健康、提升社會福祉、培養身心健全的青少年而推動相互交流，就以下內容簽署備忘錄。 1. 兩市將高齡化社會之因應對策視為重要課題，並就市民健康與社會福祉方面，進行廣泛且具體之交流及合作。 2. 兩市積極推動教育交流。 3. 本備忘錄上未規範之事項，可視需要由兩市共同協商決定。 本備忘錄以中文及日文各繕 2 份，由兩市代表署名，兩種文字均本雙方各執 1 份。 2015 年 7 月 14 日 高雄市 衛生局局長 <u>何啟功</u> 社會局局長 <u>姚雨靜</u> 教育局局長 <u>范巽綠</u> 見證人 高雄市政府副市長 <u>吳宏謀</u> 松本市 市長 <u>菅谷昭</u>	日本國長野縣松本市と中華民国高雄市は、市民の健康の増進・福祉の向上・青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進していくため、以下の内容で覚書を締結する。 1. 両市は、高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する。 2. 両市は、教育交流を積極的に推進する。 3. この覚書に定めのない事項については、必要に応じて両市が協議のうえ、決定するものとする。 上記覚書の締結を証するため、日本語及び台湾語により、本書 2 通を作成し、両市の代表者が署名のうえ、各代表者がその 1 通を保有するものとする。 2015 年 7 月 14 日 松本市 市長 <u>菅谷昭</u> 高雄市 衛生局局長 <u>何啟功</u> 社會局局長 <u>姚雨靜</u> 教育局局長 <u>范巽綠</u> 立会人 高雄市政府副市長 <u>吳宏謀</u>

覚書の内容：

日本国長野県松本市と中華民国高雄市は、市民の健康の増進・福祉の向上・青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進していくため、以下の内容で覚書を締結する。

- 1 両市は、高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する。
- 2 両市は、教育交流を積極的に推進する。
- 3 この覚書に定めのない事項については、必要に応じて両市が協議のうえ、決定するものとする。

上記覚書の締結を証するため、日本語及び台湾語により、本書2通を作成し、両市の代表者が署名のうえ、各代表者がその1通を保有するものとする。

2015年7月14日

松本市

市長 菅谷 昭

高雄市

衛生局 局長 何啓功
社会局 局長 姚雨靜
教育局 局長 范巽綠

立会人 高雄市 副市長 吳宏謀

4 交流の歴史

(1) 高雄市へ

年	月	主 な 内 容
2014 年	3月	菅谷市長がトップセールスで高雄市と台南市を訪問、高雄市副市長と面会し、交流について意見を交わした。
2014 年	5月	高雄市国際旅行博出展に伴い、坪田副市長が訪問、交流プログラムを提案した。
2014 年	7月	松本市政策部長、美術館副館長、学校指導課が高雄市を訪問、中学生や美術館を切り口とした都市間交流を協議した。
2014 年	10月	菅谷市長が陳菊高雄市長と会談し、中学生同士の教育交流を提案した。
2015 年	11月	27日、松本市の健康福祉部長ほか5名が高雄市を訪れ、松本市が市内35地区36カ所の福祉ひろばで実施している「ふれあい健康教室」を高雄市の高齢者総合サービスセンターで開催した。
2017 年	5月	11～15日、台湾への国際チャーター便の運航にあわせ、交流を更に進めるため市長を団長に公式訪問団を派遣した。高雄市では、健康福祉分野での交流や、中学校訪問、福祉・教育関係施設の視察等を行った。
2019 年	7月	24～27日、菅谷市長を団長に医療関係者等健康福祉訪問団が高雄市を訪問し、健康・福祉分野における地域包括ケアシステムを核とした医療と介護の連携について情報交換を行い、高雄医学大学附属中和記念病院、高雄市立小港病院及び高雄市立大同病院等の視察をした。
2020 年	1月	6～10日、赤羽教育長を団長、学校関係者及び松本市立中学校5校の生徒一行25名が高雄市を訪問した。 高雄市教育局表敬のほか、高雄市大仁国民中学校、高雄市福誠中学校を訪問し、高雄市立図書館等を見学した。
2026 年	1月	5～9日、曾根原教育長を団長、学校関係者及び松本市立中学校の生徒一行27名が高雄市を訪問した。 高雄市教育局表敬のほか、高雄市大仁国民中学校、高雄市陽明国民中学校を訪問し、交流を行った。

(2) 松本市へ

年	月	主 な 内 容
2015 年	7月	14日、高雄市呉宏謀（ゴコウボウ）副市長、教育局長ほか政府関係者等36名が松本市を訪れ、信州大学附属病院及び相澤病院を視察、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」を締結した。
2015 年	12月	15～17日、高雄市立小港（シャオガン）病院の一行10名が信州大学医学部附属病院を視察研修するため訪問した。
2016 年	3月	30日、長野県内の医療施設視察のため訪日した高雄市立小港病院の一行10名が来松し、相澤病院を視察した。
2016 年	4月	2日、長野県内の医療施設視察のため訪日した陳菊市長ら28名が来松し、松本城本丸庭園で市長表敬を行った。
2016 年	8月	17～19日、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」に基づき交流を進めている台湾高雄市新莊高級中学（高校）の生徒及び関係者60名が、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催期間にあわせ、音楽教育旅行として来松し、美術館中庭で演奏会を行ったほか、松商学園高校や松本大学との交流を行った。
2016 年	11月	9～11日、高雄市社会局長ほか政府関係者2名が世界健康首都会議参加のため訪問、高雄市の福祉政策について講演を行った。 9～10日、高雄市立小港（シャオガン）病院の一行19名が信州大学医学部附属病院との覚書締結に向けた意見交換、視察研修、世界健康首都会議参加のため訪問した。
2017 年	7月	4日、高雄市立小港病院が信州大学附属病院との覚書に基づき派遣した研修生ほか、小港病院関係者6名が来松し、菅谷市長を表敬した。

年 月	主 な 内 容
2017 年 9月	2～5日、台湾高雄市教育局黄（コウ）副局長はじめ、高雄市の小中高校生徒等で構成する訪問団65名が、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催期間にあわせて来松した。一行は、こども国際音楽会への参加や、旭町中学校での交流を行った。
2017 年 11月	16～17日、高雄市立小港（シャオガン）病院の候（ホウ）院長、頼（ライ）副院長を含む13名が、世界健康首都会議参加のため訪問、高雄市の先住民族に対する福祉の取り組みや、熱帯に特有の疾病などについて、展示紹介を行った。
2018 年 8月	教育局張榮譽督学を団長に、教育局及び陽明国民中学校生徒など72名が音楽教育旅行で松本を訪れ、セイジ・オザワ松本フェスティバルの吹奏楽パレードや国宝松本城本丸庭園内での合同演奏会への出演、フェスティバル演奏の鑑賞や、地元高校生との交流演奏会等を行った。
2018 年 11月	第8回世界健康首都会議で高雄市小港地区の医療、介護の総合型のしくみについて、高雄医学大学附属中和記念病院候院長、小港病院洪副院長から講演をいただき、意見交換した。
2019 年 5月	2019年中学生交流事業として台湾高雄市立龍華国民中学校一行35名が来松し、松本市立旭町中学校を訪問した。旭町中の生徒は合唱、高雄市側中学生はフルート演奏や民族ダンスを行った。学校給食の試食後、サッカー交流をした。
2019 年 10月	17～18日、第9回世界健康首都会議で高雄市医師会、高雄医学大学付属中和病院、大同病院等医療関係者一行18名が来松した。3高疾病（高血圧、高脂肪、高血糖）管理のインテリジェンス化-MENモード、慢性疾患患者への栄養教育のインテリジェンス化の紹介ブースを出展し、松本市医師会及び松本市立病院、相澤病院及び丸の内病院を視察した。
2023 年 1月	29～31日、高雄医学大学医療視察団14名が来松し、市長表敬、松本大学、信州大学医学部附属病院を視察した。
2023 年 10月	10月31日～11月1日、高雄市立陽明国民中学校一行34名が来松し、市長表敬後、松本市立会田中学校を訪問し交流をした。学校給食を試食後、英語の授業に出席した。
2024 年 5月	23～25日、高雄市立陽明国民小学校一行41名が来松し、教育長表敬後、松本市立開明小学校を訪問、学校給食を試食後、音楽で交流した。25日には、松本手まりまつりにて、演奏会を実施した。
2024 年 8月	25～26日、高雄市立陽明国民中学校一行38名が来松し、25日、市長表敬、音楽文化ホールにて丸ノ内、女鳥羽、旭町中学校との合同演奏会に出席した。26日、丸ノ内中学校を訪問、学校給食を試食後、OMFのプログラムを鑑賞した。

ラ・ロマーナ市の概要・市との交流

ドミニカ共和国 ラ・ロマーナ市とは、スポーツを起点とした人的・文化的交流を推進するため、2025年1月24日（土）、市長及び市関係者がラ・ロマーナ市を訪問し、「将来的な交流に向けた覚書」を締結しました。

1 都市概要

A 人	口	約15万人												
B 面	積	約185.5km ²												
C 平 均 標 高	36m													
D 時	差	－13時間												
E 距	離	約13,200km												
F 気	候	(気温＝℃、降水量＝mm)												
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		29.0	29.0	30.0	31.0	31.0	31.0	32.0	32.0	32.0	31.0	30.0	29.0	30.5
最 低 気 温		21.0	21.0	22.0	23.0	23.0	24.0	24.0	24.0	24.0	23.0	23.0	22.0	22.8
降 水 量		27.5	23.3	21.1	34.3	60.6	44.9	39.4	45.4	53.0	53.1	52.4	30.8	40.5
出典：weather spark														
G 主 な 産 業	製糖業、観光業													
H 特 産 物	サトウキビ、ラム酒、コーヒーなど													
I 市 長	エドゥアルド ケリー (Eduardo Kery) 氏、2024.4～													

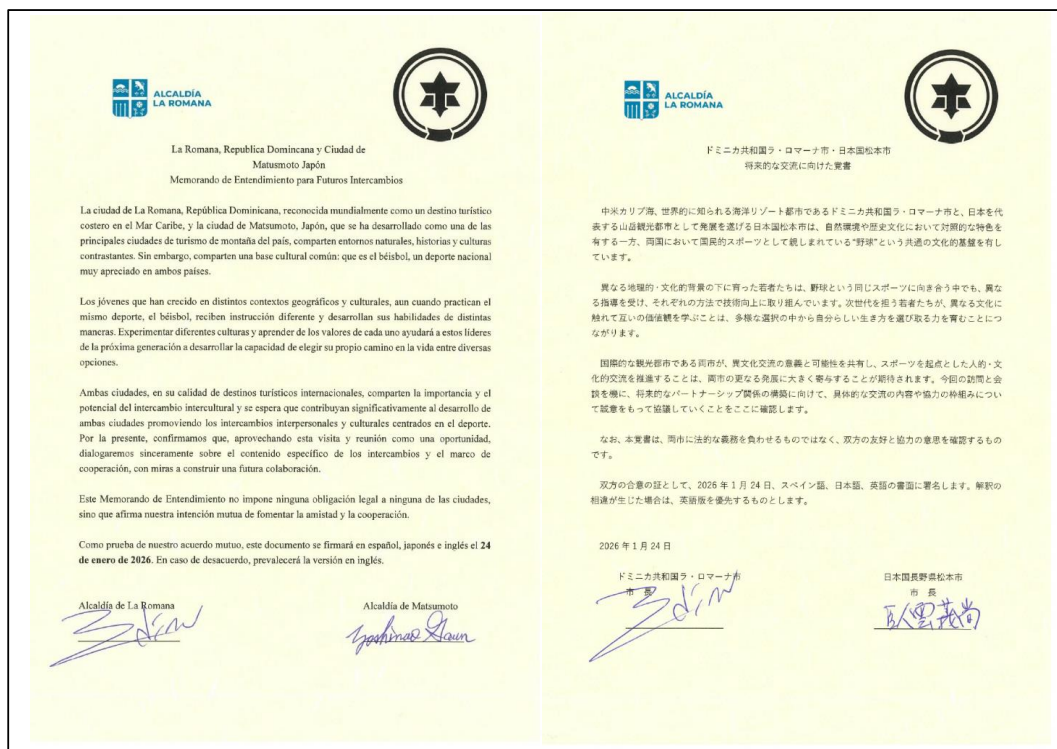
2 覚書締結の理由など

ドミニカ共和国との交流は、2019年にドミニカ共和国空手チームが本市で事前合宿を実施したことを契機に始まりました。その後、(株)テレビ松本ケーブルビジョンの佐藤浩一会長を仲立ちとして、当時の駐日ドミニカ大使である高田ロバート氏との協議の末、2024年6月に駐日ドミニカ大使館と「交流に関する意向確認書」を締結しました。

その後、交流を行う都市について比較検討した結果、「人口規模が同程度であること」「山国の松本市と対極の個性を持つ都市であること」から、ラ・ロマーナ市を選定しました。

2026年1月に中学生野球訪問団をラ・ロマーナ市に派遣、同時に臥雲 義尚 市長がラ・ロマーナ市を訪問した際にケリー市長と会談し、ドミニカ共和国外務省同席のもと野球等のスポーツを起点とした人的・文化的交流を推進することで覚書を締結しました。

3 覚書



覚書の内容：

中米カリブ海、世界的に知られる海洋リゾート都市であるドミニカ共和国・ロマーナ市と日本を代表する山岳観光都市として発展を遂げる日本国松本市は、自然環境や歴史文化において対照的な特色を有する一方、両国において国民的スポーツとして親しまれている“野球”という共通の文化的基盤を有しています。

異なる地理的・文化的背景の下に育った若者たちは、野球という同じスポーツに向き合う中でも、異なる指導を受け、それぞれの方法で技術向上に取り組んでいます。次世代を担う若者たちが、異なる文化に触れて互いの価値観を学ぶことは、多様な選択の中から自分らしい生き方を選び取る力を育むことにつながります。

国際的な観光都市である両市が、異文化交流の意義と可能性を共有し、スポーツを起点とした人的・文化的交流を推進することは、両市の更なる発展に大きく寄与することが期待されます。

今回の訪問と会談を機に、将来的なパートナーシップ関係の構築に向けて、具体的な交流の内容や協力の枠組みについて誠意をもって協議していくことをここに確認します。

なお、本覚書は、両市に法的な義務を負わせるものではなく、双方の友好と協力の意思を確認するものです。双方の合意の証として、2026年1月24日、スペイン語、日本語、英語の書面に署名します。解釈の相違が生じた場合は、英語版を優先するものとします。

2026年1月24日

ラ ロマーナ市長
エドゥアルド ケリー

松本市長
臥雲 義尚

4 交流の歴史

(1) ラ ロマーナ市へ

年	月	主	な	内	容
2026 年	1 月	臥雲市長、市関係者 5 名、中学生 12 名及び関係者 8 名、計 25 名がラロマーナ市を訪問し、交流試合、市民から寄贈された中古野球道具の寄附、ウィンターリーグの観戦、覚書の締結を行った。			

(2) 松本市へ

年	月	主	な	内	容
2019 年	8 月	ドミニカ共和国空手チームが本市で事前合宿を実施した。			
2023 年	9 月	駐日ドミニカ共和国高田ロバート特命全権大使が来松し、市長と今後の交流について懇談した。			
2024 年	6 月	駐日ドミニカ大使館と今後の交流に関する意向確認書を締結した。			

(3) その他

年	月	主	な	内	容
2026 年	2 月	彫刻の巨匠ホアン・トリニダ氏による唯一無二の展覧会「TRASCENDENCIA-超越-」を松本市立博物館にて開催した。開催に合わせて、駐日ドミニカ共和国大使及びトリニダ氏本人が来松し、市内を視察された。			

3 便利情報

和暦西暦対応表

和 暦	西 暦
昭和 元年 (大正15年)	1926年
昭和 2年	1927年
昭和 3年	1928年
昭和 4年	1929年
昭和 5年	1930年
昭和 6年	1931年
昭和 7年	1932年
昭和 8年	1933年
昭和 9年	1934年
昭和10年	1935年
昭和11年	1936年
昭和12年	1937年
昭和13年	1938年
昭和14年	1939年
昭和15年	1940年
昭和16年	1941年
昭和17年	1942年
昭和18年	1943年
昭和19年	1944年
昭和20年	1945年
昭和21年	1946年
昭和22年	1947年
昭和23年	1948年
昭和24年	1949年
昭和25年	1950年
昭和26年	1951年
昭和27年	1952年
昭和28年	1953年
昭和29年	1954年
昭和30年	1955年

和 暦	西 暦
昭和31年	1956年
昭和32年	1957年
昭和33年	1958年
提携：ソルトレーク	
昭和34年	1959年
昭和35年	1960年
昭和36年	1961年
昭和37年	1962年
昭和38年	1963年
昭和39年	1964年
昭和40年	1965年
昭和41年	1966年
昭和42年	1967年
昭和43年	1968年
昭和44年	1969年
昭和45年	1970年
昭和46年	1971年
昭和47年	1972年
提携（安曇）：グリーンゲル	
昭和48年	1973年
昭和49年	1974年
昭和50年	1975年
昭和51年	1976年
昭和52年	1977年
昭和53年	1978年
昭和54年	1979年
昭和55年	1980年
昭和56年	1981年
昭和57年	1982年
昭和58年	1983年
昭和59年	1984年
昭和60年	1985年
昭和61年	1986年
昭和62年	1987年
昭和63年	1988年

和 暦	西 暦
平成 元年 (昭和64年)	1989年
提携：カトマンズ	
平成 2年	1990年
平成 3年	1991年
平成 4年	1992年
平成 5年	1993年
平成 6年	1994年
平成 7年	1995年
提携：廊坊市	
平成 8年	1996年
平成 9年	1997年
平成10年	1998年
平成11年	1999年
平成12年	2000年
平成13年	2001年
平成14年	2002年
平成15年	2003年
平成16年	2004年
平成17年	2005年
グリーンゲル（継続）	
平成18年	2006年
平成19年	2007年
平成20年	2008年
平成21年	2009年
平成22年	2010年
平成23年	2011年
平成24年	2012年
平成25年	2013年
平成26年	2014年
平成27年	2015年
提携：高雄市	
平成28年	2016年
平成29年	2017年
平成30年	2018年

和 暦	西 暦
令和 元年 (平成31年)	2019年
令和 2年	2020年
令和 3年	2021年
令和 4年	2022年
令和 5年	2023年
令和 6年	2024年
令和 7年	2025年
令和 8年	2026年
令和 9年	2027年
令和10年	2028年
令和11年	2029年
令和12年	2030年
令和13年	2031年
令和14年	2032年
令和15年	2033年
令和16年	2034年
令和17年	2035年
令和18年	2036年
令和19年	2037年
令和20年	2038年

和暦→西暦換算法	
和暦（昭和）+1925	
（例）昭和60+1925=西暦1985	
和暦（平成）+1988	
（例）平成29+1988=西暦2017	
和暦（令和）+2018	
（例）令和 2+2018=西暦2020	



松本市国際関係資料 令和7年度版

発行日	2026年(R8) 2月1日 (改訂)
発行	松本市
編集	総合戦略局移住交流推進室
	〒390-8620
	長野県松本市丸の内3番7号
TEL	0263(34)3220
内線	1085
FAX	0263(37)1153
MAIL	kokusai@city.matsumoto.lg.jp